

後 期  
2026-2029

# 弟子屈町 観光振興計画

弟子屈町らしい持続可能な観光の実現に向けて



2026年4月  
弟子屈町





# 目次

はじめに	02
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジョン</li> <li>● ごあいさつ</li> <li>● 観光振興計画策定の意義</li> </ul>	
<b>第1章</b> 観光振興計画について	06
<b>第2章</b> 弟子屈の観光が抱える課題の全体像	12
<b>第3章</b> 課題分析と解決に向けたアクション	17
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界基準の観光ガイドラインの導入 18</li> <li>● A：持続可能なマネジメント 20</li> <li>● B：社会経済の持続可能性 30</li> <li>● C：文化の持続可能性 36</li> <li>● D：環境の持続可能性 40</li> </ul>	
<b>第4章</b> アクションプランを後押しする 組織と取り組み・財源	45
<b>第5章</b> 成果目標の設定	52
<b>第6章</b> 観光振興計画策定の経過	54
<b>巻末資料</b>	
アイデア集	57
用語集	58

*Slogan*

行きたいまちへ、  
生きたいまちへ。

*Statement*

美しい景色を目で見るだけでは、弟子屈はもったいない。

山を歩き、川を下り、湯に癒され、食をたのしむ。

火山が育んできたこのまちの過去に耳を傾け、

共に目指すべき未来を語り合いたい。

弟子屈の魅力は、ふだんの暮らしの中にあふれている。

だから暮らすように旅をすれば、きっとこのまちをめぐる価値に気づく。

だからもっともっと、伝えていこう。

このまちの歴史を、あなたが感じる魅力を、こうなりたいという未来を。

一度きりではなく、何度でも訪ねたくなる場所になる。

その先で弟子屈は、ここに生きてみたいというまちになっていきたい。

Credo

- 1 自然と人の共生をバランスよくつづけよう
- 2 再発見した弟子屈の魅力を  
訪れた人々につたえよう
- 3 守ることと遺すことで  
弟子屈の価値を次世代につなごう
- 4 挑むことと生み出すことで  
新しい弟子屈の価値をつくろう

まずは“行きたい”、  
そして“生きたい”まちになるために。

つづける  
つたえる  
つなぐ  
つくる

【Slogan：スローガン】弟子屈町のめざす旅行地の姿を簡潔に言い表した語句。ビジョン。  
【Statement：ステートメント】スローガンを補足する声明書。  
【Credo：クレド】スローガンを元に、実際に行動するときの価値基準や行動指針のこと。

## — ゴアイサツ —

広大な北海道の東部、ひがし北海道の中核に位置するわが弟子屈町。神秘の青を湛える摩周湖、噴煙立ち上る硫黄山、そして日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖。これらわが町の風景を見ていると、いつも心からの安らぎと、この地に生きる誇りが胸に込み上げてきます。

町の面積のおよそ3分の2が阿寒摩周国立公園に含まれる本町において、「100年先も続く持続可能な町」をめざすことは、単なるスローガンではありません。それは、先人たちが厳しくも豊かな自然と対峙し、築き上げ、守り抜いてきた壮大な自然環境を、損なうことなく未来へつなぐという、現代に生きる私たちの責務です。

2020年代初頭、世界を襲ったパンデミックは、私たちの社会に大きな試練を与えました。しかし、それを乗り越えた2026年の今、弟子屈町には再び活気が戻りつつあります。特に、長年の懸案であった「川湯温泉街の再整備事業」や「中心市街地再構築事業」の進展は、本町が新たな時代へと歩み出した確かな証です。街並みが生まれ変わり、賑わいが戻りつつある今こそ、「真に豊かな観光地とは何か」を考えなければなりません。訪れる人の数だけを追わず、磨き上げた地域資源の価値をさらに高め、その利益が確実に地域経済に還元される仕組みが必要です。

この高度なかじ取りを担うのが、観光地域づくり法人（DMO）として2022年に登録された「一般社団法人摩周湖観光協会」です。行政だけではカバーしきれない機動力を持ち、民間事業者や町民の皆さまと密接に連携する同協会は、まさに「観光地経営の司令塔」です。客観的なデータに基づいた戦略を立案し、多様な関係者を束ねて進むべき方向を示す「観光地域づくりのかじ取り役」として、本計画を強力に推進していきます。

観光の語源は「国の光を観る」という中国の古典にあると言われています。光を当てるべき町の宝は、絶景だけではありません。湯量豊富な温泉、大地が育む食、アイヌ文化を含む歴史、そして何より、この町で暮らす人々の営みそのものです。観光は、旅行者や事業者だけのものではありません。町民の皆さまが日々の暮らしに豊かさを感じ、この町が好きだと思えること。その「地域の誇り」こそが、訪れる人々への極上のおもてなしとなります。「変えていくこと（イノベーション）」と「変えないこと（伝統と自然）」を見定め、町民と来訪者が互いに尊重し合える関係性を築く。それこそが、私たちが目指す持続可能な観光地域づくりの姿です。

本計画の策定にあたり、熱意を持って議論を重ねていただいた町民、事業者の皆さま、そして貴重なご提言をくださった全ての皆さまに、深く感謝を申し上げます。

計画策定が目的ではありません。実行して初めて命が吹き込まれます。変化の激しい時代ではありますが、柔軟に軌道修正を行いながらこの計画を着実に進めます。「世界に誇れる弟子屈」の未来を、共に創り上げていきましょう。

弟子屈町長 徳永哲雄

# 豊かな自然や人々の暮らしを守り続ける 「弟子屈町らしい持続可能な観光」

観光は「総合産業」と言われています。経済・社会基盤が脆弱化する社会で雇用を生み出し、経済社会の発展の重要な役割を担う産業です。弟子屈町においても、宿泊業や飲食業はもちろんのこと、農業、水道やガス、運送業、交通事業者などあらゆる産業への波及効果が大きく、すべての産業のけん引役となることが期待されています。また、観光業は機械化のできない産業であることから、雇用促進の面でも経済効果が高い産業であると言えます。

全国有数の豊かな自然を擁する弟子屈町では、一過性のマストツーリズムで地域の自然や暮らしに負荷をかけることで経済を活性化させていくのではなく、中長期の視点で「持続可能な観光地域づくり」を行っていくことが求められています。町が直面するさまざまな社会課題を解決し、地域の魅力である豊かな自然を守りながら成長していくためには、町民と行政が同じ目線で協働していくことが大切です。

## 目的

### 「弟子屈町らしい持続可能な観光」の指針の共有と 実現に向けた取り組みを促進

- 本計画の目的は、豊かな自然や人々の暮らしなど、町の魅力を守り続けるための一つ的手段として観光産業が重要である現状や、弟子屈町らしい「持続可能な観光のあり方」の指針を共有することです。
- 町民と行政が共通認識を持つことで、実現に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

## ターゲット

### 地元の関係事業者に加えて、町民すべての心に残り 訪れる人の共感を生み出す観光振興計画

- 本計画は、地元観光事業者のみならず全ての町民、そして弟子屈町を訪れる旅行者に向けて策定されたものです。

## 大切なこと

### 「一人ひとりの日々の取り組み」が弟子屈町の未来を創り出す

- 中長期視点で「持続可能な観光」を実現するためには、豊かな自然を守るだけでなく、環境・社会経済・文化がともにバランスよく発展していくことが重要です。それは一人ひとりの日々の小さな取り組みから始まるものです。
- 行政だけでなく町民のアイデアや行動を掛け合わせ、日々の取り組みを積み重ねることで、未来を共に創っていくことができると考えています。

#### 【参考①】

#### なぜ観光が重要なのか



#### 【参考②】

#### 持続可能な観光とは

UN Tourism（国連世界観光機構）によると、持続可能な観光とは、  
「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れる  
コミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び  
将来の経済、社会文化、環境への影響を充分  
に考慮する観光」と定義づけられています。

# 1

## 第1章 /

# 観光振興計画について

## 弟子屈町の自然観光資源

### 弟子屈町



東西	28.8 km
南北	31.0 km
面積	774.33 km <sup>2</sup>

東経 144 度 13 分、北緯 43 度 23 分から 42 分の地点にあり、町の面積の 65% は阿寒摩周国立公園に位置しています。  
日本最大の屈斜路カルデラ、日本一の透明度をほこる摩周湖、活火山のアトサプリを擁します。

### 弟子屈町の自然観光資源

弟子屈町の「自然観光資源」はエコツーリズム推進全体構想で定義しています。

豊かな自然資源を背景とした本町の観光は、2016 年（平成 28）策定（2020 年変更認定）の『てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想』がその根幹を成しています。2022 年の観光振興計画策定から 4 年が経過し、この資源定義は地域に深く浸透していることから、本後期計画においても新たな定義付けは行わず、同構想を基盤とした持続可能な観光施策を展開します。

#### 弟子屈町の自然観光資源

▼「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」より一部抜粋

#### ① 動植物の生息地または生育地その他の自然環境に係るもの

【動物】哺乳類（エゾシカ、ヒグマ、エゾシマリス、エゾモモンガなど）、鳥類（タンチョウ、シマフクロウなど）、魚類（イトウ、ヒメマスなど）、両生類、昆虫類、甲殻類（ニホンザリガニ）、火山活動の影響を受けた昆虫類

【植物】森林植生、噴気孔原植生、弟子屈の名木、マリゴケ

【動植物の生息地、生育地】オオハクチョウ飛来地、つつじヶ原

【地形・地質】火山（硫黄山）、火山地形・活動（カルデラ、溶岩円頂丘）、温泉、湖沼（摩周湖、屈斜路湖、キンムトー）、河川（釧路川）、滝

【自然景観】眺望（峠）、星空、雲海

#### ② 自然環境と密接な関係を有する風俗習慣その他の伝統的な生活文化に係るもの

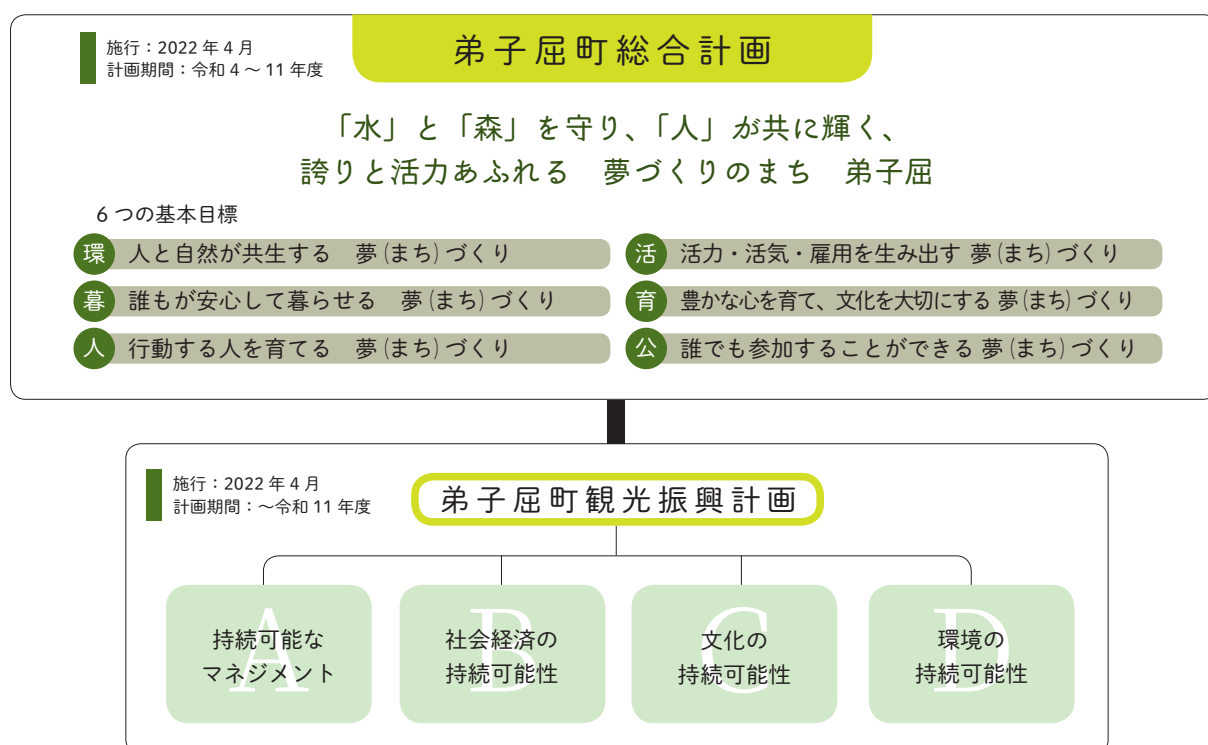
【史跡】青葉トンネル 【伝統文化】アイヌ文化

#### ③ 特定自然観光資源：「硫黄山の噴気孔」

# 観光振興計画の位置付け・期間

## 位置付け

本町の指針である「第6次弟子屈町総合計画（令和4年度～11年度）」は、策定から4年が経過し、令和8年度からは後期計画期間に入っています。本観光振興計画においても、この総合計画の着実な推進を図るための実施計画として、また「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略」との緊密な連携のもと、前期の進捗と社会情勢の変化を反映した具体的なアクションプランを定めています。



## 対象期間

第6次弟子屈町総合計画は、令和4年度から令和7年度の前期と、令和8年度から令和11年度の後期に分かれています。本計画においては長期的な視点で観光政策の全体を見ながらも、4年ごとに軌道修正を加えながら、総合計画と連動する形で具体的なアクションプランを推進していきます。

2022～2025年度 (令和4～7)	2026年度 (令和8)	2027年 (令和9)	2028年度 (令和10)	2029年度 (令和11)	2030年度～ (令和12～)	
前期		後期			新規	
実施	効果検証 	・第6次弟子屈町総合計画（後期） ・第3期てしかがまち・ひと・しごと創生戦略 ・弟子屈町観光振興計画（後期）			効果検証 	次期計画 策定・実施

# 観光の重要性

## 日本にとっての観光の意義

観光庁によると、日本にとっての観光の意義とは主に以下の4点です。

### 1 成長戦略の柱

急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の国際観光需要を取り込むことによって、日本の力強い経済を取り戻します。

### 2 地方創生の鍵

人口減少・少子高齢化が進行する中、国内外からの交流人口の拡大や旅行消費によって地域の活力を維持し、社会を発展させます。

### 3 国際社会での日本の地位向上

諸外国との双方向の交流を通して、国際相互理解を深め、我が国に対する信頼と共感を強化します。国際社会での日本の地位を確固たるものとするために、観光は極めて重要です。

### 4 自らの文化・地域への誇り

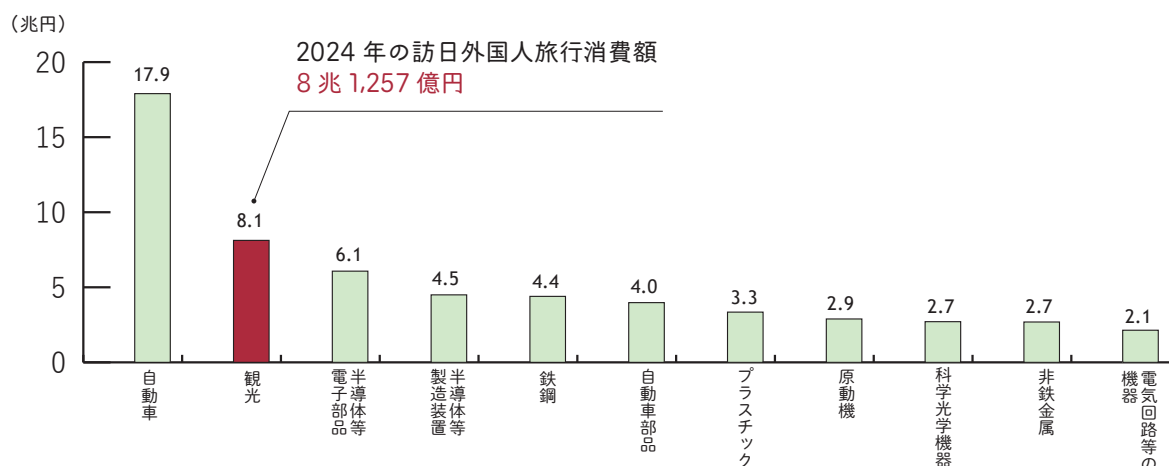
観光は、地域固有の自然や文化資産の保全と活用の好循環を促す重要な産業です。外部からの高い評価は、住民の地域への誇りを醸成するきっかけとなります。そして、この誇りこそが、地域資源を守り、未来を共につくり上げる持続可能な地域づくりの基盤となります。

## 訪日外国人の旅行消費額

2024年の訪日外国人による旅行消費額は、総額8兆1,257億円に達しました。輸出額ベースでは自動車に次ぐ第2位となり、コロナ禍を経てもなお、日本にとって観光が重要な「産業」として回復・成長していることが示されています。

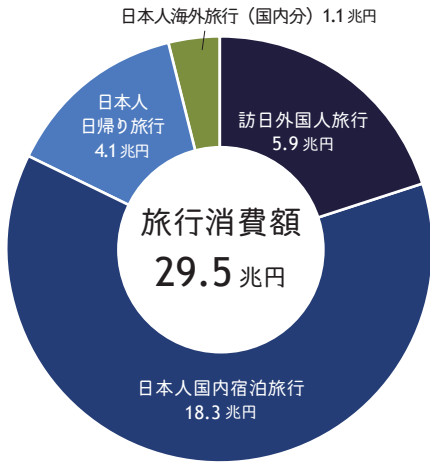
「訪日外国人の消費動向2024年 年次報告書」（観光庁：[https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei\\_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html)）  
「貿易統計 令和6年分（確定）」（財務省：[https://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/2024/2024\\_117.xml](https://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/2024/2024_117.xml)）をもとに作成

【表1】訪日外国人旅行消費額の製品別輸出額との比較



## 旅行消費額の波及効果

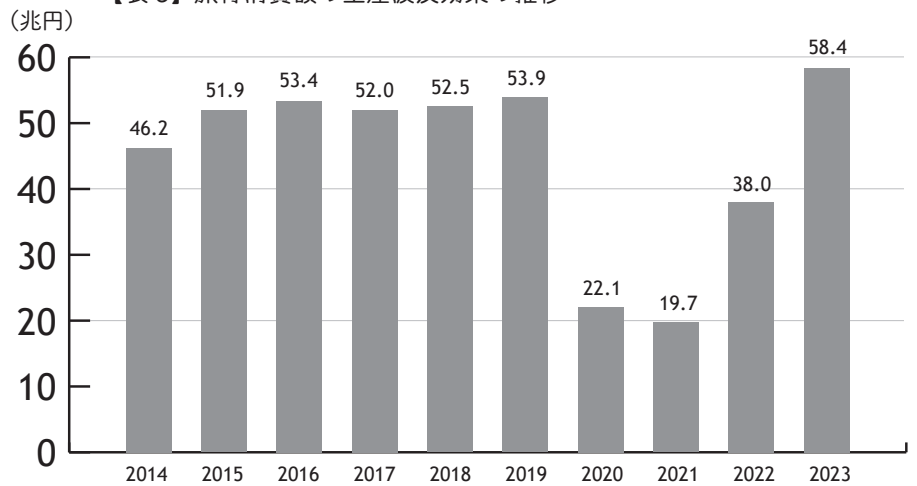
【表2】旅行タイプ別・消費額（2023年）



観光業は裾野の広い「総合産業」と言われています。観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」によると、2023年の日本国内における旅行消費額は総額 29.5 兆円とされています。この旅行消費が他産業にもたらす生産波及効果は 58.4 兆円に達しており、2023年には過去最大となっています。また、約 530 万人の雇用が創出されていると試算されています。

表2・表3は「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」  
 (観光庁：https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001758299.pdf) をもとに作成

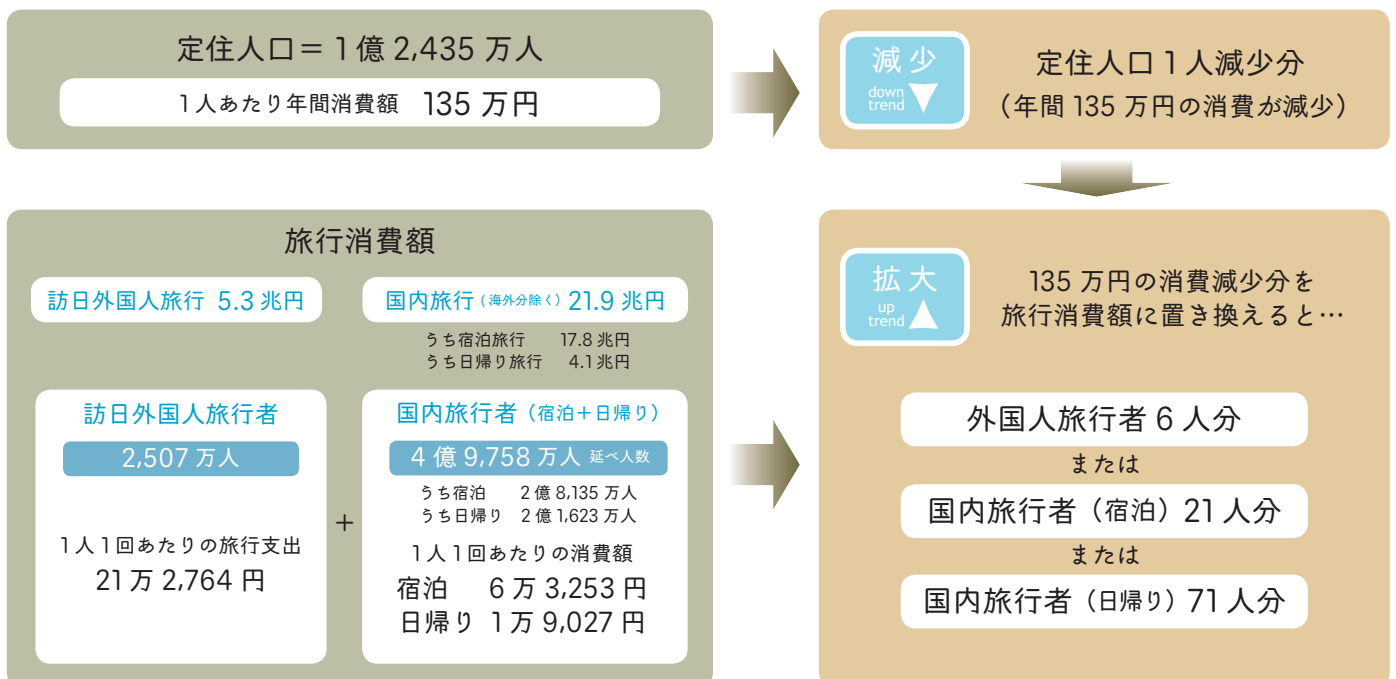
【表3】旅行消費額の生産波及効果の推移



## 観光交流人口増大の経済効果（2023年）

定住人口 1 人当たりの年間消費額（135 万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者 6 人分、国内旅行者（宿泊）21 人分、国内旅行者（日帰り）71 人分にあたります。

「我が国観光産業の現状と今後の展望（令和 6 年 10 月 10 日）」(観光庁：https://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/content/000335103.pdf) をもとに作成



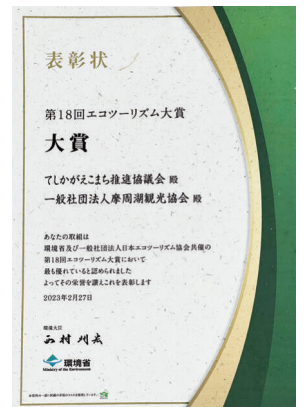
# 前期計画の検証と後期計画の展望

## 前期計画の成果

前期計画期間においては、一般社団法人摩周湖観光協会のDMO法人登録や、エコツーリズム推進に向けた体制構築など、持続可能な観光地域づくりに向けた重要な「基盤整備」を着実に進めました。コロナ禍という未曾有の困難の中にあっても、将来を見据えた組織づくりと方向性の共有が図られたことは、本町の観光振興における大きな成果であると評価しています。

特に、エコツーリズム推進の象徴的な取り組みである「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の仕組みを使ったアトサヌプリの立ち入り制限規制と、認定ガイド制度の運用による「アトサヌプリトレッキングツアー」の実施は、国内外から大きな評価をいただき、2023年には「第18回エコツーリズム大賞」および「Green Destinations TOP100 STORIES」を受賞しました（p.48 参照）。

また、当町の観光の中心地である川湯温泉街の再整備に向けて、廃屋となったホテルの取得や取り壊しが進められ、本計画の個別計画として「川湯温泉街まちづくりマスタープラン」や「川湯温泉街景観ガイドライン」の策定が進められたこと、観光中核地である摩周湖やアトサヌプリ（硫黄山）でのレストハウス改修などが行われたことも成果として挙げられます。



## 前期計画の課題と後期計画の展望

前期計画期間中にはさまざまな成果があった一方で、整備された基盤を、具体的な「地域経済への還元」と「自然資源の保全」という持続的な循環につなげていくことについては、十分な成果が上げられたとは言えません。コロナ禍で落ち込んだ入込数や宿泊者数は、計画で掲げたコロナ前の水準まで回復せず、この4年の間にも、新規宿泊施設の開業は多かったものの、大型ホテルの休廃業などがあり、地域としての受入キャパシティは減少しています。繁閑差や働き手の不足など、事業者の抱える悩みも解消には至っていません（KPIの達成状況は次ページ参照）。

後期計画においては、引き続きこれらの課題解決や、旅行消費額の拡大、その収益が自然保護や住民生活に還元される仕組みづくりが求められています。

## 後期計画に向けた管理組織の役割分担

弟子屈町（行政）	【制度設計と環境整備】持続可能な観光地経営を整える役割を担います。具体的には、宿泊税などの導入検討を含めた自主財源の確保や、自然環境を守りながら活用するためのルール形成の主導、観光地の再整備を通し、安定的かつ質の高い受入環境を構築します。
摩周湖観光協会（地域DMO）	【マーケティングとマネジメント】地域観光の「司令塔」として、データに基づくマーケティングと、適切なプロモーションを実施します。住民や地域環境に負荷を与えない持続可能なマネジメントを通して、地域全体で稼ぐ仕組みをデザインします。

行政による環境整備とDMOによる事業推進を「車の両輪」とし、町民・事業者との協働のもと、世界水準のサステナブルな観光地としてのブランドを確立します。

前期計画の達成状況

	項目	2021年度 (令和3)	2022年度 (令和4)	2023年度 (令和5)	2024年度 (令和6)	2025年度 (令和7) 推計値*	設定 KPI	達成度 (%)
全体	JSTS-D各項目に基づく評価と検証	実施	実施	実施	実施	実施	毎年実施	100
	Green Destinations TOP100 選出	-	落選	選出	-	-	選出	100
マネジメント	町民満足度 (%)	43	49	51	51	51	50	100
	観光振興計画に対する町民の認知度 (%)	未策定	46.7	41.9	38.1	-	20	100
	観光振興計画に対する町民の理解度 (%)	未策定	41.7	42.6	44.3	-	20	100
	観光振興計画に対する町民の共感度 (%)	未策定	40.1	40.9	42.5	-	20	100
社会経済	観光入込客数 (人)	524,689	646,777	706,776	755,513	762,217*	900,000	85
	旅行消費単価 (円)	29,154	47,229	45,829	50,194	50,588	27,000	100
	宿泊者数 (人)	91,436	149,726	168,231	176,808	183,535*	240,000	76
	来訪者満足度 (%)	17.9	20.2	27.8	21.7	22.9	30.0	76
	リピーター率 (%)	71.4	61.0	67.4	65.4	66.3	70.0	95
	観光消費額 (億円)	76	171	206	193	222*	144	100
	温泉ランキング (位)	59	59	70	55	72	30	42
	道の駅ランキング (位)	24	22	22	14	4	10	100
文化	文化資源に対する町民の認知度 (%)	11.0	16.9	16.3	15.9	-	20.0	80
	文化資源に対する町民の理解度 (%)	14.0	16.9	16.3	15.9	-	20.0	80
	文化資源に対する町民の共感度 (%)	8.0	16.1	16.4	16.4	-	20.0	82
環境	自然資源に対する町民の認知度 (%)	46.0	22.3	21.9	20.9	-	55.0	38
	自然資源に対する町民の理解度 (%)	20.0	22.3	23.2	23.0	-	30.0	76
	自然資源に対する町民の共感度 (%)	16.0	20.2	19.8	23.6	-	25.0	94

※ 2025年度の数字は、後期計画策定時点において確定していないため、2025年12月31日時点の数値を元に、2026年1月～3月の見込み数字を足した「推計値」を記載しています。

推計値の算定が困難な項目は、記載していません。

※ 達成度 (%) は、2025年度の数字が無い項目については、2024年度の数値により算出しています。

# 2

## \ 第2章 /

### 弟子屈の観光が抱える

# 課題の全体像

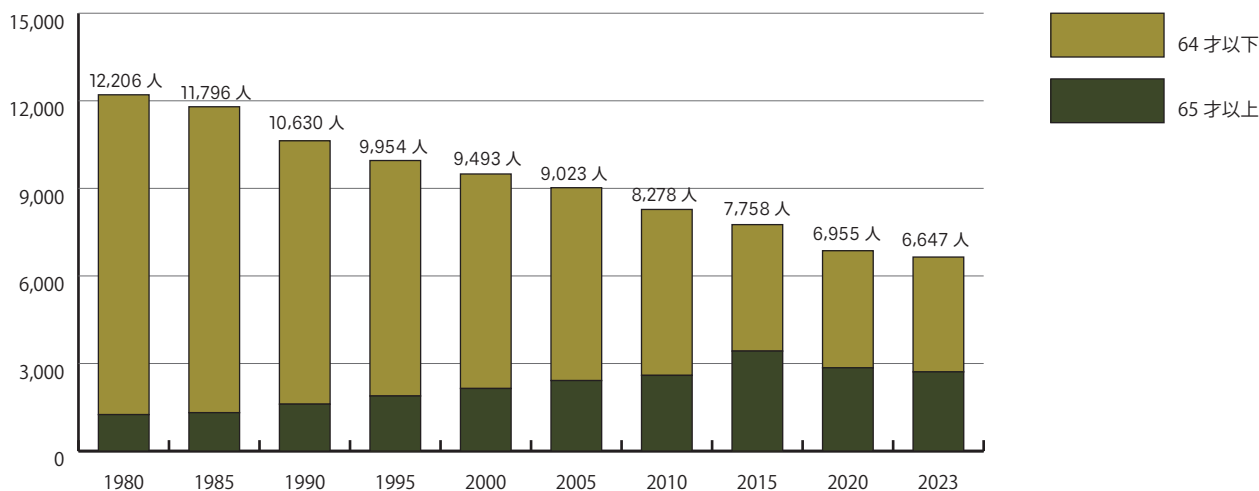
## 数値から見る観光の現状

### 課題 1

弟子屈町の人口は、1980年には12,206人を記録しましたが、その後減少の一途を辿り、2023年末時点では6,647人と半数近くまで落ち込んでいます。一方で、65歳以上の人口比率は上昇し続けており少子高齢化が進行しています。このような状況のなか、観光産業がしっかりと担い手を確保することも重要な取り組みのひとつです。

### 観光産業を支える「担い手」の確保と育成

【表4】弟子屈町における人口推移



人口構成の変化によって、弟子屈町の重要な産業である観光産業も「担い手・働き手の不足」という深刻な課題に直面しています。担い手の不足は地域ならではの質の高いサービス提供を困難にするだけでなく、豊かな地域資源の保存・継承を危うくする大きな要因となっています。

持続可能な観光地域づくりの担い手確保を、単なる労働力対策に留めず、観光をきっかけとした若年層の地域への流入を促すことは、町全体の少子高齢化対策への貢献となります。

#### ■ 交流人口 (こうりゅうじんこう) / Exchange population

交流人口とは、その地域を訪れる人々のこと。その地域に住んでいる人(定住人口又は居住人口)に対する概念である。その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャーなど、特に内容を問わないのが一般的である。

#### ■ 関係人口 (かんけいじんこう) / Related population

関係人口とは、その土地に住んでいる、または移住した「定住人口」ではなく、観光などで訪れた「交流人口」でもない、居住地と離れた地域を行き来して、地域の人々と多様に関わる人々のこと。

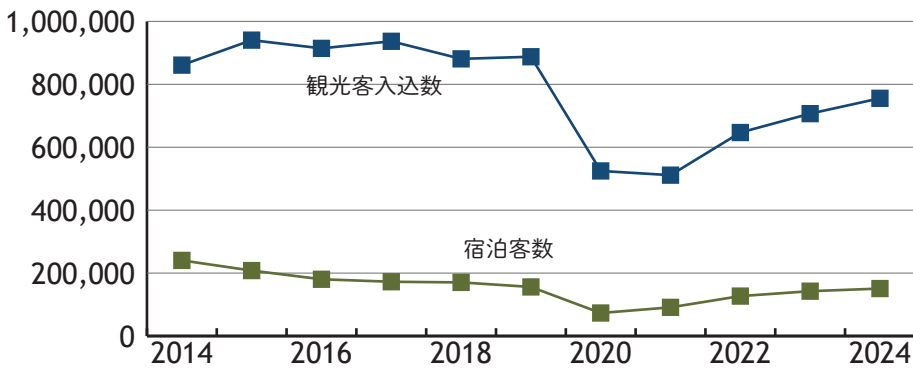
出典：JTB 総合研究所

## 課題 2

横ばいが続いていた弟子屈町を訪れる観光客数は、コロナで一時的に減少したものの、2022年から着実に回復をみせています。持続可能な観光地をめざすためには、宿泊客・長期滞在客を増やしていくことが必要であり、受け皿となる摩周エリア・川湯エリアの整備が求められています。

### 長期滞在の促進

【表 5】年度別・観光客数および宿泊客数



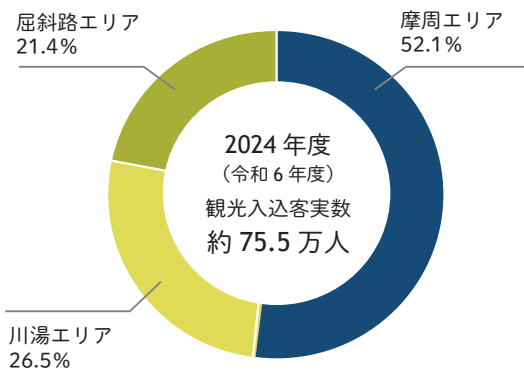
弟子屈町を訪れる観光客（入込客数）は、2015年以降、横ばいで推移しています。一方で、宿泊客数は減少傾向にあり、日帰り旅行者が増加していると考えられます。

また、コロナ禍収束後に観光客入込客数が増加している状況と比較しても、宿泊客数は依然として伸び悩んでいます。コロナ禍に、宿泊施設の閉館などによる宿泊キャパシティが減少したことも課題のひとつとして挙げられます。

今後、地域にもたらされる経済波及効果を高めるためには、長期滞在を促進する施策が求められています。

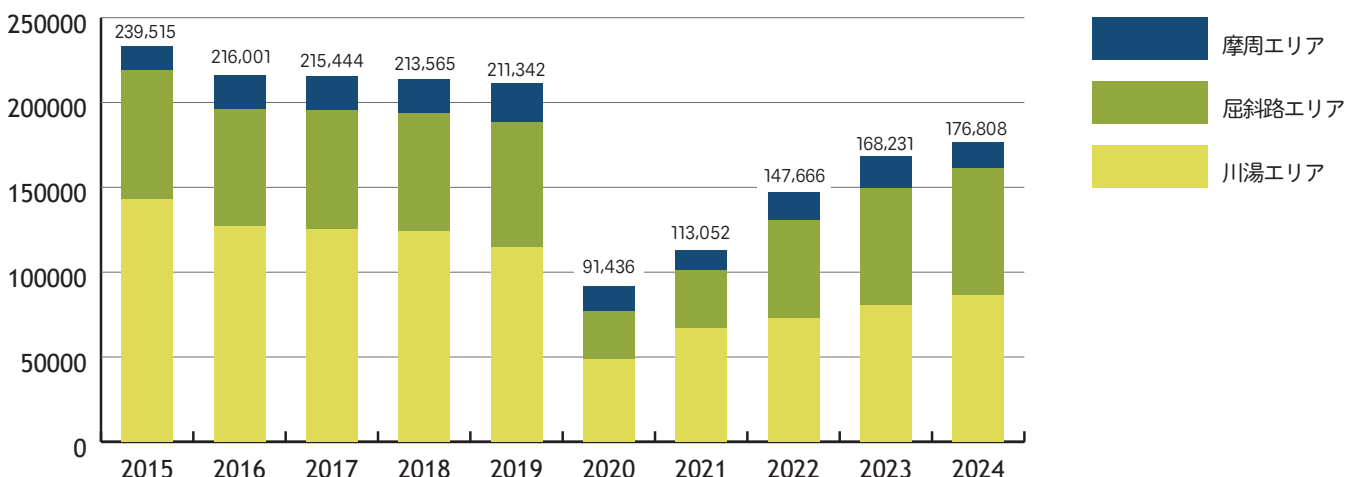
### 摩周エリアに加えて川湯エリア・屈斜路エリアへの誘客

【表 6】エリア別観光客入込数（2024年度）



弟子屈町を訪れる観光客は、摩周エリアを訪れる客が最も多く、つづいて川湯エリア、屈斜路エリアとなっています。摩周エリアは日帰り客が多く、川湯エリア、屈斜路エリアは宿泊客を含む割合が高いものの、いずれも減少傾向にあることが分かります。摩周エリアの魅力向上や施設の整備を図るとともに、川湯エリアを中心に宿泊客・長期滞在客を受け入れるための再活性化が必要です。

【表 7】年度別宿泊客延べ数推移（弟子屈町全域・各エリア） ※外国人を含む



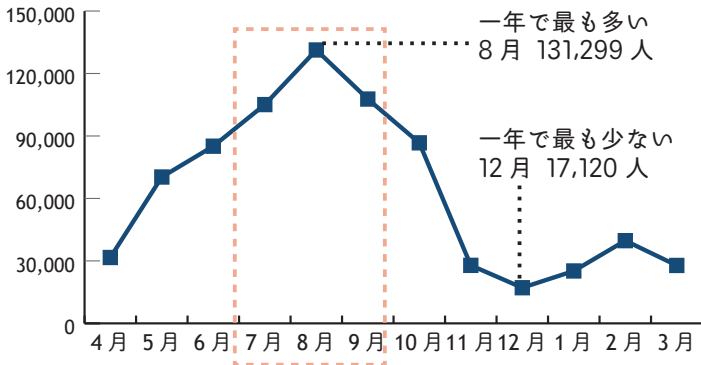
## 課題 3

弟子屈町の観光は夏のピーク時に集中しており、結果的に観光事業者の繁忙状況や自然・文化資源への負荷にも偏りが出る構造となっています。そのため、年間を通じた分散、富裕層も含めたインバウンド客による来訪の平準化が求められています。

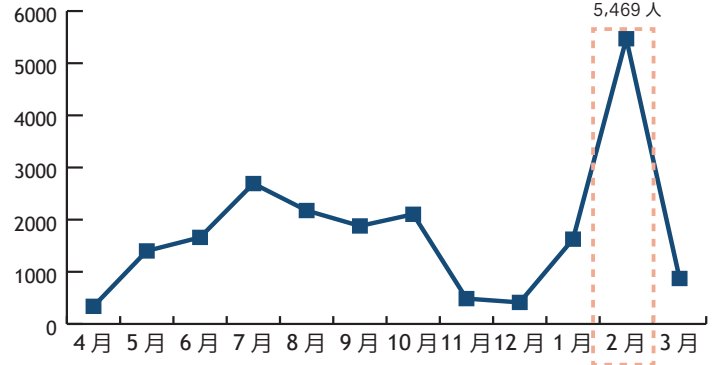
### 観光需要の分散化

弟子屈町を訪れる観光客数を月別にみると夏季に集中していることがわかります。より持続可能な観光地域づくりに向けて、夏季以外の誘客数の底上げを図るとともに、年間を通して観光産業が活性化することが大切です。

【表 8】 弟子屈町月別観光客入込数（2024 年）



【表 9】 弟子屈町月別外国人宿泊者客延数（2024 年）

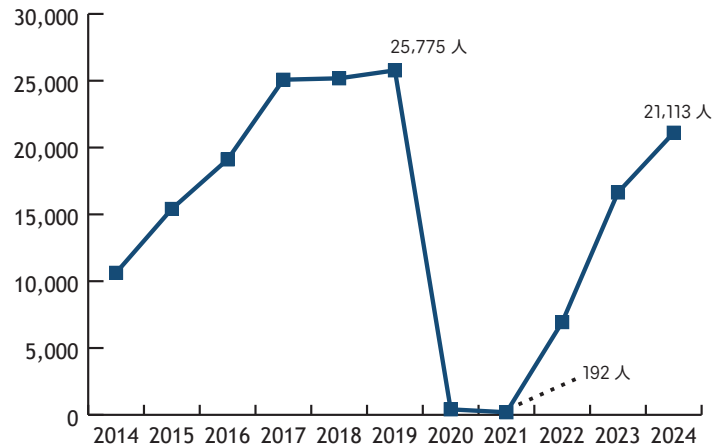


### インバウンドの取り組み

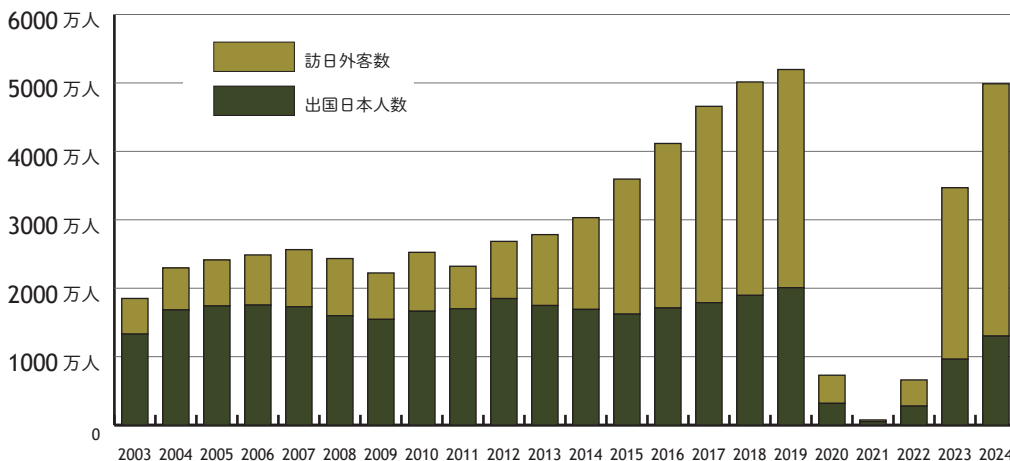
弟子屈町への訪日外国人客数は、コロナ禍収束後、急速に回復しています。さらに、2024年には、国内旅行市場が閑散期となる2月において、外国人旅行客数が年間で最も多い結果となりました。

今後、季節ごとの入込み客数の平準化を進めるにあたっては、冬季観光の活性化に加え、日本全体のインバウンド市場の回復を背景とした、外国人旅行者に向けた取り組みの強化が重要です。

【表 10】 弟子屈町の年度別外国人宿泊者数の推移



【表 11】 全国の外国人旅行者数・出国日本人数の推移（参考）



2003年に1,330万人であった日本人の出国者数は、その後、比較的緩やかな増加にとどまりました。一方、2003年に521万人であった訪日外国人旅行者数は急速に増加し、コロナ禍収束後も順調な回復を見せ、2024年には3,687万人へと大幅に増加しています。

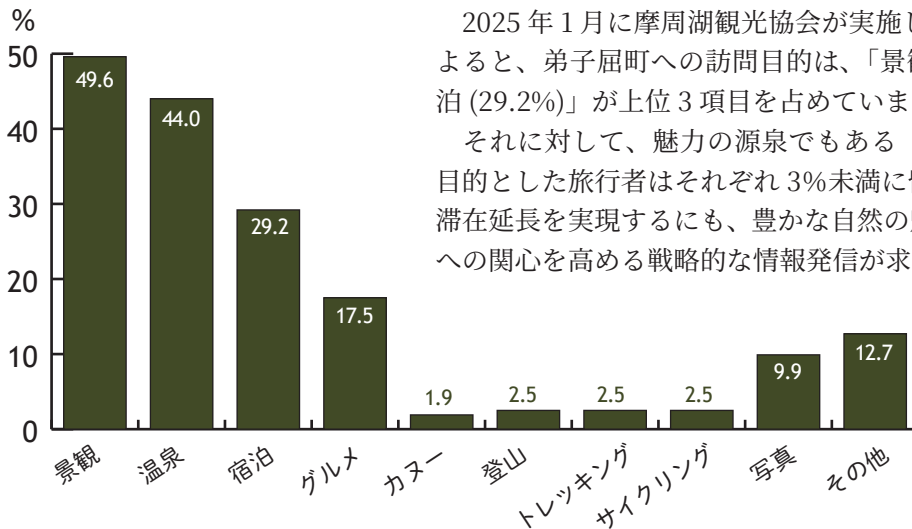
「出国日本人数の推移」（観光庁：<https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--outbound--outgoing--transition>）  
「訪日外客統計」（観光庁：<https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/>）をもとに作成

## 課題 4

弟子屈町には素晴らしい景観や温泉のほか、豊かな食やさまざまなアクティビティなどがあります。しかし、現状では多くの旅行者がその魅力を十分に体験しきれていません。まず「弟子屈で何ができるか」を分かりやすく伝え、人々の興味を高める情報発信が重要です。魅力を知り、楽しんでもらうことで、町での滞在時間を延ばし、満足度や消費額の向上に繋げる好循環を作っていくことが求められています。

### 弟子屈らしい魅力の認知向上を図る情報発信

【表 12】 弟子屈町への訪問目的（2025 年）



2025年1月に摩周湖観光協会が実施した「弟子屈町のイメージ調査」によると、弟子屈町への訪問目的は、「景観(49.6%)」、「温泉(44.0%)」、「宿泊(29.2%)」が上位3項目を占めています。

それに対して、魅力の源泉でもある「自然を楽しむアクティビティ」を目的とした旅行者はそれぞれ3%未満に留まっています。消費単価の向上と滞在延長を実現するためにも、豊かな自然の魅力を活かしつつ、アクティビティへの関心を高める戦略的な情報発信が求められています。

### 観光消費額の拡大

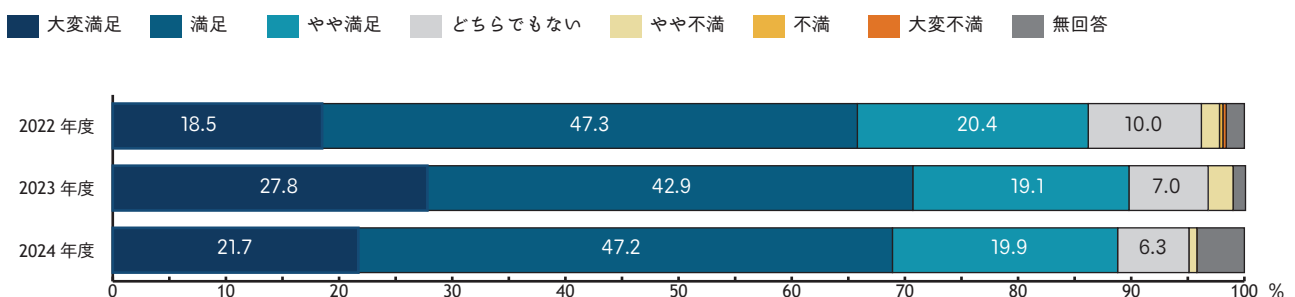
水のカムイ観光圏（釧路湿原・阿寒・摩周）の調査報告によると、2024年度における1人あたりの広域全体の平均消費額は49,789円です。そのうち摩周エリアの平均消費額は50,194円となっており、地域全体の平均を上回る結果となりました。

特に消費額を押し上げているのは「宿泊客」であり、宿泊を伴う旅行者の消費額は、日帰り客と比較して約2倍の水準となっています。このことから、消費額の観点においても、日帰り客ではなく宿泊客の獲得が重要であることが明らかです。

### 来訪者満足度の維持・向上

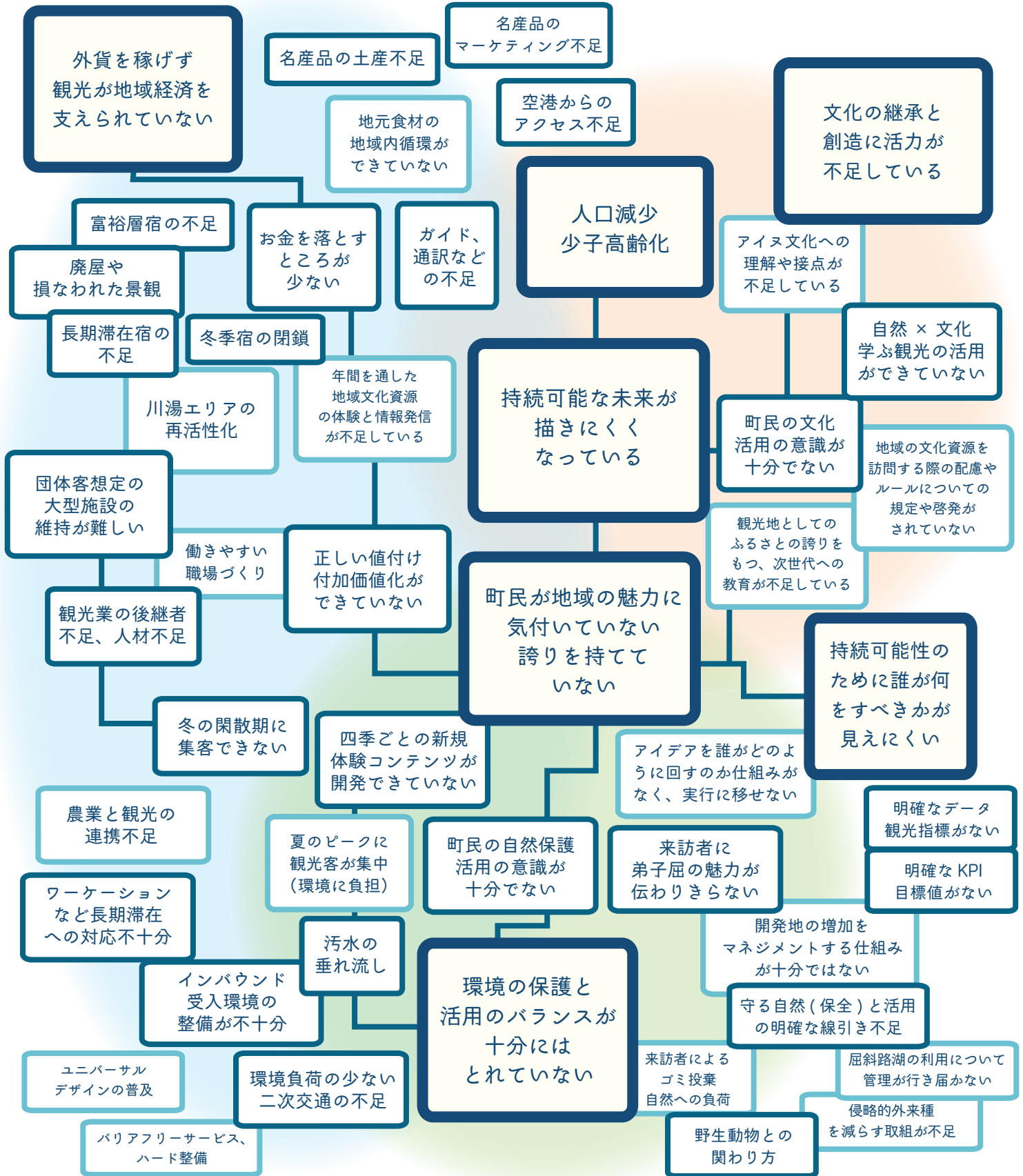
水のカムイ観光圏（釧路湿原・阿寒・摩周）の調査報告によると、2024年度のエリア全体の『大変満足』の割合は23.5%（2020年度18%）であり、摩周エリアは21.7%（2020年度15.4%）となっています。2020年度と比較すると満足度は改善傾向にあり、今後もエリアでの滞在に満足し、高く評価してくれるファン層を創出していく余地があることから、満足度向上にはさらなる伸びしろがあるといえます。

【表 13】 来訪者満足度調査結果（摩周エリア：2022-2024年）



# 弟子屈町の観光が抱える課題の全体像

前期計画策定時に、弟子屈の観光事業者やてしかがえこまち推進協議会とのワークショップなどを通して「持続可能な観光地域づくり」という観点から現状の弟子屈が抱える多様な課題を抽出しました。これに、後期計画策定にあたって実施したアンケート調査の結果を追加したものが以下の図です。



# 3

\ 第3章 /

## 課題分析と解決に向けたアクション

### 本章の用語について

#### 基本施策

課題から導きだされた「今後の方針の柱」を基本施策としています。

#### アクションプラン

基本施策を実現していくための具体的な行動を、アクションプランとして明記しています。各基本施策に対し1つ以上のアクションプランを設定しました。

#### 所管

各アクションプランを実施するための舵取りを行う団体

#### 連携

所管の組織とともに、アクションプランを実施していく団体

#### 協力

アクションプラン実施にあたり、合意形成をはかったり、会議への出席や実際の作業への参加などにより支援や協力を求める団体



MKトレイル エブシの森

# 世界基準の観光ガイドライン

弟子屈町らしいビジョンの実現に向けて、  
世界基準の観光ガイドラインを活用しています。

本計画では、「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」のビジョンを体現し、弟子屈町らしい持続可能な観光を実現するため、観光庁が策定した国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations：JSTS-D）」を、2022年より導入・活用しています。

本計画では、町民からのアイデアや課題分析を経て、必要な取り組みをアクションプランとして策定しています。アクションプランはそれぞれJSTS-Dの各指標に紐づけられ、実施状況は国際的な基準に基づきモニタリングしていくこととします。

## 日本版持続可能な観光ガイドラインとは

### 国際基準に準拠した指標

日本版持続可能な観光ガイドライン Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations (JSTS-D) は、日本の特性を各項目に反映した上で、GSTC(注1)による観光地向けの持続可能な観光の国際基準「GSTC-D2.0」に準拠した指標として開発され、2020年6月に観光庁よりリリースされました。

### 持続可能な観光地マネジメントを進める上でのガイドライン

各地方公共団体や観光地域づくり法人(DMO)は、指標に基づいた取り組みを進めることで、持続可能な観光地マネジメントを進めることが可能となります。

### 4分野から構成される指標

日本版持続可能な観光ガイドラインは、A マネジメント、B 社会経済、C 文化、D 環境の4分野から構成されており、合計47の大項目・113の小項目が設定されています。



※注1

国連の機関や公共、民間、NGOの各セクターなど、観光に関わる150以上の団体が参画している機関で、さまざまな認証機関の認証プロセスを審査し、認定する。GSTCの開発した、持続可能な観光地の基準であるGSTC-Destination Standardは、世界で唯一UN Tourism(旧UNWTO)の指示のもとに作られた指標である。

## 持続可能な観光地域づくりの背景



近年、世界各国で持続可能な開発目標(SDGs：Sustainable Development Goals)に対する関心が高まっています。SDGsは「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓い、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標であり、観光分野においても同様に”持続可能性”を意識した取り組みの推進が世界共通の課題として認識されています。弟子屈町でも2022年3月策定の「弟子屈町第6次総合計画」および「弟子屈町観光振興計画」において、SDGsの考え方を取り入れています。

日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)は、主に以下の3つの役割を果たすことが期待されています。

### 自己分析 ツール

観光政策の決定、観光振興計画の策定に資するガイドラインとして活用

### コミュニケーション ツール

地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組む契機に

### プロモーション ツール

観光地域としてのブランド化、国際競争力の向上



JSTS-D で定められた各項目の取り組み状況を定期的にモニタリング・評価しながら、弟子屈町らしい持続可能な観光地域づくりを推進していきます。弟子屈町および摩周湖観光協会では、観光庁より JSTS-D ロゴマークの使用承諾を得ています。

## 弟子屈町が JSTS-D に取り組む理由

「地球環境と、それを運営する組織が持続可能である観光地域づくり」を目指すにあたり、地域の観光資源を世界共通の基準で検証することが大切です。取り組みを進めるべき理由として、以下の4点が挙げられます。

### 1 世界標準の持続可能な観光地となれる

国際的に認められた指標に沿って地域づくりに取り組むことは、自治体の取組を国際基準に則したものにすること。グローバルな視点に立ち、観光地経営を行うことは、地域としての責務です。

### 2 世界中のお客さまから「選ばれる観光地」に

Booking.com による調査結果(※)では、世界の旅行者の93%が「旅行に関してよりサステナブルな行動をしたい」と回答しています。このような意識を持つ旅行者は、地球環境や旅行目的地の環境に悪影響を与えないよう、自らの行動に気配りを行うことができ、弟子屈町の求める旅行者像と合致します。一方で、この調査は「サステナブルな旅行地」でなければ、旅行者からは選ばれないということも示しています。(※) Booking.com 2025年版「サステナブル&トラベル」に関する調査

### 3 弟子屈の自然・文化を次世代にも継承

評価項目を用いて自己分析を行うことで、自然や文化をどのように保護していくべきかの課題を明らかにします。これらの課題を検証し、課題解決のための行動を起こすことで自然や文化が保護され、次世代への継承につながります。またこれらのプロセスを経ることで観光地としての魅力が向上していくことも期待されます。

### 4 SDGsの流れにも対応し、住んでよし・訪れてよしの観光地に

JSTS-Dの各項目は、SDGsの17の目標のどれに紐づく取り組みなのかを必ず明示し、人々の暮らしをより持続可能に、豊かにするために考えられた指標となっています。取り組みを進めることで、旅行者だけでなく弟子屈町で働く人、暮らす人にも住みやすいまち、住んでいて誇らしいと感じられるまちづくりを推進します。

# A

## 持続可能なマネジメント

### 基本施策とアクションプラン

本計画で定めるビジョンを達成するための「戦略」と「仕組み」がマネジメントです。国際基準に準拠した日本版のガイドライン（JSTS-D）に沿って、町全体の指針を定めることにより計画を推進していきます。各組織の連携のあり方や旅行者の実態の把握、戦略策定などを進めていくのが持続可能なマネジメントです。短期的な目標だけではなく、中長期的な視点で町の観光の向かうべき方向性を定めることが重要です。

持続可能なマネジメントの継続により、住民・観光事業者・旅行者が「弟子屈＝持続可能な観光地をめざすまち」であることを理解し、誇りと愛着を持ったまちにしていくことを目指します。

#### 基本施策Ⅰ 意見交換・連携できる場づくり

関係団体や機関がお互いに連携しながら重複や抜け漏れなく事業を進められるよう、意見交換・連携できる場づくりをします。そして、各事業をスムーズに実行に移す基盤を醸成する取り組みを実施します。



A-AP 1 さまざまな地域関係者が参画する意思決定の場の充実

#### 基本施策Ⅱ 観光教育の充実

町民が弟子屈の魅力に気づき、誇りを持ってまちづくりに携わることが、弟子屈町らしい持続可能な観光を実現する第一歩です。次世代を担う子ども達を対象として、観光の可能性や課題にも触れながら文化や歴史の継承に繋がるふるさと教育の取り組みを行います。



A-AP 2 ふるさと教育の推進



美幌峠から望む屈斜路湖

## 基本施策Ⅲ 旅行者動向の把握およびデータを活かしたマーケティング・情報発信

観光地のマネジメントを行う上で、旅行者のデータ取得は欠かせません。入込客数や消費額に留まらず、観光目的、地域での行動などを把握します。調査で得られたデータは事業者や町民にも共有し、ターゲット戦略やプロモーション活動へつなげていきます。

- A-AP 3 旅行者の数や属性、活動内容の継続的な把握
- A-AP 4 ターゲットの再選定とマーケティング戦略の見直し
- A-AP 5 ターゲット層に訴求する適切な情報発信
- A-AP 6 地域全体でのデータ活用や観光需要の研修の実施
- A-AP 7 町民への理解促進



## 基本施策Ⅳ はんかんさ 繁閑差の解消

繁忙期が夏に偏る現状は、事業者や働く人に大きな負担を強いるものとなっています。繁閑差を解消するため、観光需要の平準化に向けた取り組みを実施します。

- A-AP 8 繁閑差の解消



## 基本施策Ⅴ 住民と旅行者の健康と安全の確保

すべての人に大切なことは、健康で安全に過ごせること。いざという時の備えを怠らず、常に「安全で信頼される観光地」を目指します。

- A-AP 9 健康と安全の確保
- A-AP 10 リスクと危機管理



## 基本施策Ⅵ 地域経済を向上させるグランドデザインと価値の創造

弟子屈町の魅力は豊かな自然であり、保全と活用のバランスの維持が欠かせません。今まで自然と共に暮らしてきた町民の声も取り入れながら、乱開発や土地からの資源搾取などを防ぐ適切な土地利用を推進するとともに、特性を活かした価値の創造を目指します。

- A-AP 11 国立公園を中心とした地域の価値の啓もう
- A-AP 12 乱開発の抑制
- A-AP 13 ここでしか体験できない新しい価値の創造



A-AP  
1

A 持続可能なマネジメント > 基本施策 I 意見交換・連携できる場づくり

さまざまな地域関係者が参画する意思決定の場の充実

対応 JSTS-D

これまで、多くの関係団体が町民や旅行者のためにさまざまな活動を行ってきました。しかし、中には内容が重なっているものがあったり、逆に必要な取り組みが抜け落ちていたりしたこともありました。

こうした「ムダ（ダブリ）」や「見落とし（モレ）」をなくし、地域全体を一丸となって運営していくために、関係者が集まり、まちづくりについて話し合う場として「弟子屈町観光経済戦略会議\*」が作られました。戦略会議の場では観光地経営に関わるさまざまな施策とその効果について確認し、効率的な観光地経営を進めます。

\* 弟子屈町観光経済戦略会議：p.45 参照



実現に向けた具体的なアクション

- DMO\*\* の体制強化
- 弟子屈町観光経済戦略会議の定期的な開催
- 観光地域づくりに関連する各団体との情報共有

\*\* DMO：用語解説 p.59 参照



今日からできる  
町民アクション



JSTS-D  
A1

JSTS-D  
A2

JSTS-D  
A6

■ 住民主体のまちづくり団体  
「てしかがえこまち推進協議会」  
へ参加し、自分の意見を伝える

※てしかがえこまち推進協議会：p.46 参照

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

連携

- ・ 弟子屈町（観光商工課）
- ・ 弟子屈町観光経済戦略会議の  
各構成団体

A-AP  
2

A 持続可能なマネジメント > 基本施策 II 観光教育の充実

ふるさと教育の推進

対応 JSTS-D

住み続けたいと思える町にするためには、その町に住む一人ひとりが自分の町に誇りを持つことが何より大切です。町で起こっていることに目を向け、自然や人や出来事に触れ、その良さに気づくことが、まちづくりの第一歩となります。

弟子屈町では、すべての学校でふるさと教育を実践していますが、小・中・高校と継続して学べる「体系的なふるさと教育」の計画を立て、計画に沿った教育プログラムを実践していきます。

高校では探究学習が行われますが、その一環として、あるいは校外学習として、町内で行われるさまざまな経済活動へ自ら参加していく人財\*の育成を目指します。

\* 人財：人こそが町の財産であるという考えのもと、本来の「人材」ではなく「人財」と表記しています。



実現に向けた具体的なアクション

- 小中高連携の総合・探究的な学習の計画・実施
- 弟子屈高校生の町内経済活動への参画



今日からできる  
町民アクション



JSTS-D  
A8

■ 子ども達にふるさとの良さを伝える  
（景勝地に行く、星を見るなど）

■ 小中高高校生は、観光振興計画のアクションの中からテーマを選び、動画作成や探究を行う

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・ 弟子屈町教育委員会
- ・ 弟子屈高等学校
- ・ 弟子屈町（観光商工課）

連携

- ・ てしかがえこまち推進協議会

協力

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 小中学校

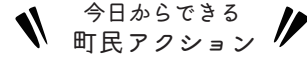
観光地経営の基盤は、観光客数や活動の正確な把握と管理です。国別・月別の来訪客・宿泊者数の把握に加え、個々の旅行者の目的や興味関心、消費額、満足度を含む「来訪者調査」を実施することで、観光が経済や環境に与える影響について経年で管理することや、効果的なプロモーションを実施することができるようになります。

より広範なデータを取得するため、現在実施している水のカムイ観光圏による調査に加えて町独自の調査を行うため、その内容について検討し、調査方法を確立させます。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 来訪者調査の見直し
- データの確実な取得
- 来訪者アンケート調査の実施



■「広報てしかが」や、摩周湖観光協会のニュースレターを読んでみる

※ニュースレターは年に2回以上の発行を予定しており、広報てしかがと一緒に届けられます。

JSTS-D  
A3JSTS-D  
A9JSTS-D  
A10JSTS-D  
A11

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・摩周湖観光協会（DMO）
- ・弟子屈町（観光商工課）

##### 連携

- ・弟子屈町振興公社
- ・川湯温泉旅館組合
- ・釧路観光コンベンション協会（水のカムイ観光圏事務局）

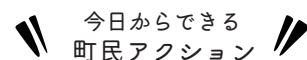
毎年約70万人以上が訪れる弟子屈町ですが、その内訳はさまざま。2024年には、海外からも21,113人の旅行者がこの町で宿泊しています（延べ数）。これまでもターゲットの選定は場面ごとに行われてきましたが、きめ細かな市場分析を徹底することで、弟子屈と特に相性の良い「重点ターゲット層」を絞り込み、ペルソナ\*を分析。その方々へ向けた最適なアプローチ方法を検討することで、弟子屈町として特にどのような方々に来ていただきたいのかを明確にします。

\* ペルソナ：用語解説 p.59 参照



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 市場分析の実施
- 重点ターゲット層の確立とペルソナ分析
- ターゲット層へのアプローチ方法の検討



■町内で実施されているさまざまな研修会やセミナーに参加してみる

JSTS-D  
A10JSTS-D  
A11

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・摩周湖観光協会（DMO）
- ・弟子屈町（観光商工課）

##### 連携

- ・弟子屈町観光経済戦略会議の各構成団体

A-AP  
5

A 持続可能なマネジメント > 基本施策Ⅲ 旅行者動向の把握およびデータを活かしたマーケティング・情報発信  
ターゲット層に訴求する適切な情報発信

対応 JSTS-D

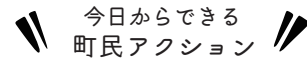
弟子屈町ではこれまでも、さまざまな手法でプロモーション活動を実施してきました。ここでの「プロモーション」とは、弟子屈町のことをより多くの方に知っていただき、足を運んでいただき、商品や体験、宿泊、飲食などの購買につなげていただくための販売活動のことを指します。

弟子屈町を訪れたい方、訪れていただきたい方に、適切な情報発信を行うための取り組みとして、プロモーション計画の策定や、町内事業者の現状について確認を行います。また、公式サイト「弟子屈なび」や SNS を活用した多言語発信を強化するとともに、海外プロモーションを戦略的に展開することで、国内外のターゲット層へ町の魅力を届けます。



実現に向けた具体的なアクション

- プロモーション計画の策定
- 事業者の現状とターゲット層の把握
- SNS を活用した多言語での発信
- 観光公式サイト（弟子屈なび）を活用した効果的な情報発信
- 海外プロモーション



今日からできる  
町民アクション

■ 弟子屈町の観光公式サイト「弟子屈なび」をしてみる

※アクセス数とアクセス範囲が増えることでサイトの信頼性が高まり、より多くの方に見ていただくことができます。

JSTS-D  
A10

JSTS-D  
A11

JSTS-D  
B1

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

連携

- ・ 弟子屈町（観光商工課）

A-AP  
6

A 持続可能なマネジメント > 基本施策Ⅲ 旅行者動向の把握およびデータを活かしたマーケティング・情報発信  
地域全体でのデータ活用や観光需要の研修の実施

対応 JSTS-D

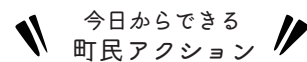
持続可能な地域マネジメントには、知識や情報の共有が欠かせません。具体的には、来訪者のモニタリングやプロモーションで得られたデータを地域全体で共有し、現状の数値・成果・課題について事業者や関係者が認識できる場づくりを行います。

あわせて、このようなデータを実際の業務に取り入れるためのデータ活用方法や、最新の観光事情について学ぶ研修会を積極的に開催すること、また、町内事業者向けの情報発信を定期的に行うことで、地域一体となった持続可能な観光地域づくりを目指します。



実現に向けた具体的なアクション

- 最新の観光事情について学ぶ研修会の開催や案内、事業者の視察や実務研修
- 町内事業者向けの現状の情報発信



今日からできる  
町民アクション

■ 町内で実施されているさまざまな研修会やセミナーに参加してみる

JSTS-D  
A3

JSTS-D  
A5

JSTS-D  
A6

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 弟子屈町（観光商工課）

連携

- ・ 弟子屈町観光経済戦略会議の各構成団体

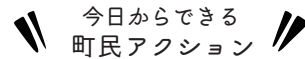
「観光」は弟子屈町の基幹産業であり、経済循環や環境保全、雇用促進など多くの面で好影響をもたらします。しかし、産業は地域に住まう人の幸福のためにあるものです。「観光のための地域づくり」ではなく「地域のための観光」を推進していくことが、持続可能な観光地域づくりには何よりも大切です。

観光が地域にもたらす意義について、町民一人ひとりが実感できる環境づくりを進めます。そのため、観光の現状や、DMOの活動の成果などを町民に向けて分かりやすく発信し、双方向のコミュニケーションを大切にしながら、町民の理解促進に努めます。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 町民への広報活動（広報通信の発行 など）



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
A6JSTS-D  
A8JSTS-D  
A12

■「広報てしかが」や、摩周湖観光協会のニュースレターを  
読んでみる

※ニュースレターは年に2回以上の  
発行を予定しており、広報てしかが  
と一緒に届けられます。

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

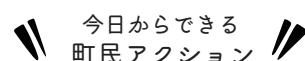
- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 弟子屈町（観光商工課）

弟子屈町を訪れる旅行者の来訪時期は、7～9月の夏季に極端に偏っています（p.14 参照）。冬期間は積雪や路面凍結などにより車での移動に注意が必要になることから旅行者が少なく、クローズする宿も少なくありません。しかし需要の偏りは、ピーク時に合わせた設備投資や季節労働者の増加など、事業者にも働く人にも負担を強いるものになっています。また、混雑の発生による自然および生活環境悪化なども心配されます。これら事業者や環境への負担を軽減するためには、観光需要の平準化が不可欠です。そのため、閑散期（10～6月頃）の魅力づくりの推進や情報発信、集客の強化を進めることで、繁閑差の解消を目指します。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 閑散期の魅力創造
- 観光需要や販売時期を意識した効果的なプロモーション



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
A11

■10月～6月の弟子屈の楽しみ  
方や魅力を、SNSで国内外に発  
信する



#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

##### 連携

- ・ 弟子屈町（観光商工課）
- ・ 川湯温泉旅館組合

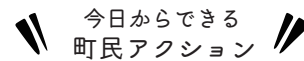
旅行に出かけるとき、その町の安全や医療の情報について確認するのは、旅の準備のひとつ。健康な人にも、体調に不安のある人にも、住民にも旅行者にも、安心して過ごせる環境は何より大切なことです。

弟子屈町が「安全で信頼される旅先」であるよう、誰にとっても大切な「健康と安全」に関する最新の情報を発信し、医療情報については事業者へも周知します。旅行者が必要とする情報を共有し備えておくことで、旅行者に安全で選ばれる観光地を目指します。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 旅行者の健康と安全に関する適切な情報発信
- 旅行者の受け入れに関する管内の医療情報を事業者へ周知



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
A15JSTS-D  
A16

- 体調が悪そうな人や困っている人を見かけたら、優しく声をかける
- 地域の最新の医療情報を入手する

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（総務課、観光商工課）

##### 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 川湯温泉旅館組合

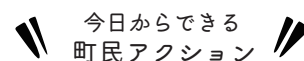
弟子屈町は近年、甚大な災害に見舞われていませんが、地震や気象災害、噴火などの自然災害はいつ発生するか予測できません。発災時には地域住民や旅行者の命を守り、被害を最小限に抑える備えが不可欠です。

弟子屈町での災害発生時の対応について定めた「弟子屈町地域防災計画」や「アトサヌプリ火山防災計画」に基づき、事業者のリスク管理に関する啓蒙活動を推進します。また、海外の観光客にも分かりやすいよう避難に関する案内情報を充実させ、安全な観光地づくりを進めます。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 町全体の防災計画に基づく事業者のリスクに関する危機管理の啓もう
- 観光施設における避難情報の充実および多言語化



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
A15

- 「避難場所」と「そこへ至る安全な道」を家族で確認してみる

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（総務課、観光商工課）

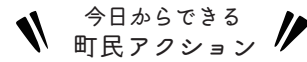
##### 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 川湯温泉旅館組合
- ・ 弟子屈町商工会
- ・ 弟子屈町防災士会

弟子屈町は、阿寒摩周国立公園の特徴でもある森と湖と火山から形成される豊かな自然が広がっています。ここでは自然の中に生きる人々の暮らしと自然の距離が近いことも、多くの人を惹きつける魅力のひとつになっています。

この国立公園を中心とした豊かな自然資源を次世代に継承するため、価値の伝達と自然資源のモニタリング結果\*の公表を実施します。

\*モニタリングの実施はD-AP2で定められています。

JSTS-D  
A10

- モニタリング結果を読んでもみる
- 川湯ビジターセンターへ行ってみる

### 主に誰が事業を実施していくか

#### 所管

- ・ 弟子屈町  
(環境生活課、観光商工課)

#### 連携

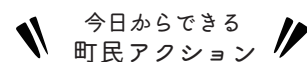
- ・ 環境省
- ・ てしかがえこまち推進協議会



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 自然資源モニタリング結果の公表
- 川湯ビジターセンターにおける価値解説の充実

弟子屈町では、町域の65%が国立公園に含まれ、建物や工作物には景観保護のための一定の制限があります。2022年には、「弟子屈町景観計画」が策定され、町内全域が対象区域となりました。また、再整備が進む川湯温泉街では、温泉街の景観保護を目的とした「川湯温泉街景観ガイドライン」が策定されています。今後も弟子屈町の自然景観を保護していくため、乱開発の抑制は町全体で取り組む必要があります。

JSTS-D  
A12JSTS-D  
B6JSTS-D  
C1

- 土地や家屋を売買する時は、相手方の目的などをよく確認して慎重に判断する
- 弟子屈町景観計画や川湯温泉街景観ガイドラインを読んでもみる

### 主に誰が事業を実施していくか

#### 所管

- ・ 弟子屈町 (観光商工課)

#### 連携

- ・ 環境省



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 重要な景観や適切に保護すべき土地を守るための取り組みの確立
- 経済活動に配慮した川湯温泉街景観ガイドラインの実行

町内に滞在する旅行者が、より上質な滞在時間を過ごせるように、これまでになかった新しい価値の創造に取り組みます。ルールに基づく新たな利用エリアの開放としては、アトサヌプリ（硫黄山）での登山再開の先行事例がありますが、屈斜路湖や摩周湖、温泉川周辺などのうち、これまでに利用されていない新たなエリアにおける新規体験コンテンツの造成も今後の取り組み項目のひとつです。また、屈斜路湖畔の施設の上質化推進など、多方面から「弟子屈ならでは」の価値創造を進めていきます。

今日からできる  
町民アクション

■ 自分だけが知っている自然の中での遊び方を、周りの人とも共有する



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 上質化や環境に配慮した新規コンテンツの開発
- 既存コンテンツの磨き上げ
- 上質化や環境に配慮した屈斜路地区の振興

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（観光商工課）
- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

##### 連携

- ・ てしかがえこまち推進協議会



第13回弟子屈フォトコンテスト入賞作品  
「ダイヤモンドな摩周の夜」 神子島 智樹



冬の摩周湖 Photo: Tomoki Kokubun

# B

## 社会経済の持続可能性

### 基本施策とアクションプラン

弟子屈町の町民や事業者が、安定した雇用や収入を得て、暮らしやすい社会サービスの実現と、経済的利益の分配につながる観光産業を目指します。観光ではできる限り地産地消を推奨し、地元ならではの魅力を地域経済へと還元していく取り組みを推進します。

摩周メロンや摩周そばなどの特産品や豊富な温泉など、町内の資源を最大限活用し、地域産業と観光が地域内で繋がり循環していく経済を築くことが、弟子屈町における持続可能な経済の発展に繋がります。

社会経済の持続可能性の実現により、観光で外貨を獲得し、地域経済を支える基幹産業として雇用と経済循環を生み出している状態を目指します。

### 基本施策Ⅰ 地域資源を活かした観光地拠点整備

ハードとソフトの両面から温泉街や観光拠点の整備を進めることで、地域の魅力向上と活性化を目指します。



- B-AP1 川湯温泉街まちづくりマスタープランの推進による魅力向上
- B-AP2 観光拠点の活性化
- B-AP3 摩周温泉街の魅力向上



川湯温泉のロゴマークをあしらった提灯



温泉川と「川湯岩盤テラス」

## 基本施策Ⅱ 地産地消の推進

弟子屈町内の経済循環の創出を図るため、豊かな食の魅力を活かした名産品化および地産地消の取り組みなどを実施します。地域内の消費を促進することで輸送にかかる環境負荷や経済コストを軽減するだけでなく、災害などの非常時にも強い地域づくりを目指します。



**B-AP4** 豊かな食の魅力を活かした名産品化の取り組み支援による付加価値の向上

**B-AP5** 地元食材の活用など域内循環率向上の促進



摩周そば

## 基本施策Ⅲ 観光産業に携わる働きがいの醸成と雇用機会

弟子屈町の観光産業に携わる方々がより働きやすく、働きがいを感じられる環境づくりに繋がる取り組みを実施します。

**B-AP6** 観光産業に携わりたい人を増やす雇用環境の整備



## 基本施策Ⅳ 多様な受入環境の整備

年齢、性別、文化、身体状況など、人々のさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが訪れやすい観光地としてユニバーサルデザインを推進します。また長期滞在を促し、旅行者にも町民にも暮らしやすいまちづくりを推進します。



**B-AP7** 誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザインの普及

**B-AP8** 長期滞在を促進する受入体制の整備

B-AP  
1

B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 I 地域資源を活かした観光地拠点整備

川湯温泉街まちづくりマスタープランの推進による魅力向上

対応 JSTS-D

古くからアイヌの人々に親しまれ、明治の頃からは湯治場としても栄えた名湯、川湯温泉。しかし観光の主流が団体客から個人客へと変化していく中、多くの宿泊施設が閉館しました。

今、川湯温泉では国立公園満喫プロジェクトによる廃屋撤去が進み、2023年に策定された川湯温泉街まちづくりマスタープランに沿って再整備が進められています。かつての賑わいをそのまま再現するのではなく、静けさを価値とした国立公園内に灯をともし、新しい魅力ある温泉街を創出していくことで、町に活気を呼び戻します。



実現に向けた具体的なアクション

- 温泉街の景観改善
- 温泉川を中心とした温泉街の清掃と維持管理
- 既存事業者の振興策の実施
- 情報発信
- 新規宿泊施設および商業事業者の誘致
- アトサヌプリの面的整備



今日からできる  
町民アクション

- 川湯温泉の日帰り入浴を利用する
- 川湯温泉の商店や飲食店を利用する
- 温泉川の清掃イベントに参加する

JSTS-D  
B3

JSTS-D  
B4

JSTS-D  
B8

JSTS-D  
A11

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・弟子屈町（観光商工課）
- ・環境省

連携

- ・阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会
- ・摩周湖観光協会（DMO）

協力

- ・観光事業者

B-AP  
2

B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 I 地域資源を活かした観光地拠点整備

観光拠点の活性化

対応 JSTS-D

弟子屈町を代表する主要な観光スポットである摩周湖およびアトサヌプリ（硫黄山）では、2022～23年にかけてレストハウスの全面的なリニューアルが行われました。訪れる旅行者の満足度をさらに向上させるためには、ソフト面での一層の改革が求められています。

各観光拠点の多言語化や案内看板などを充実させることと並行して、町内の観光拠点を複数巡るための周遊促進の取り組みを進めます。これにより、旅行者の域内滞在時間が延び、施設における消費額の向上が期待されます。



実現に向けた具体的なアクション

- 観光拠点の魅力向上プランの策定
- 観光拠点の多言語化や案内看板など環境整備
- 観光拠点の周遊促進



今日からできる  
町民アクション

- SNSを使った写真の投稿
- 摩周湖やアトサヌプリ（硫黄山）への訪問

※町民は5月と8月を除き、駐車料が無料です（身分証を提示）。

JSTS-D  
B8

JSTS-D  
A11

主に誰が事業を実施していくか

所管

- ・弟子屈町振興公社
- ・弟子屈町（観光商工課）
- ・摩周湖観光協会（DMO）

連携

- ・環境省
- ・北海道
- ・自然公園財団

## 摩周温泉街の魅力向上

対応 JSTS-D

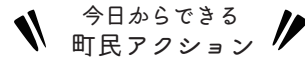
明治18年開湯で、道東最古の湯といわれる摩周温泉。しかし平成19年頃よりホテルの閉館が続き、廃屋となったホテルが景観を損ねています。現在計画が進められている中心市街地の新たな複合施設を中心とした「中心市街地再構築全体構想」を推進するとともに、廃ホテルの撤去や新規宿泊施設の誘致などを通し、観光地としての魅力を向上させる取り組みを継続的に実施します。

道の駅摩周温泉では、中心市街地からの旅行者の導線を考え、魅力向上や受入環境整備などのリニューアルや、効果的な情報発信を行っていきます。



## 実現に向けた具体的なアクション

- 中心市街地再構築全体構想の推進
- 新規宿泊施設および商業事業者の誘致
- 既存事業者の振興策の実施
- 摩周温泉街に関する情報発信
- 道の駅摩周温泉の魅力向上、受入環境整備

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
B3JSTS-D  
B8

- 摩周温泉の日帰り入浴を利用する
- 道の駅摩周温泉を利用する
- SNSでの魅力発信（#摩周温泉）

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町  
（まちづくり政策課、観光商工課）
- ・ 弟子屈町商工会
- ・ テシカガまちなかデザイン
- ・ テシカガタウンラボ

## 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ みちえき摩周直売会
- ・ てしかがえこまち推進協議会

## 豊かな食の魅力を活かした名産品化の取り組み支援による付加価値の向上

対応 JSTS-D

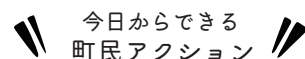
冬と夏の気温差が60℃以上にもなる弟子屈町は、寒暖差のもたらす甘みの強い農産物や、摩周和牛や弟子屈ポークといった畜産物、生乳、温泉熱を活かした果実栽培、湖の恵みである水産資源などに恵まれています。町内では、このような弟子屈産の食材を使ってさまざまな特産品が開発・販売されています。

これらの商品について、地元の食材を使っていることを分かりやすく掲示し、より多くの方に知っていただくことを目指し、特産品認定制度の確立と運用を進めます。



## 実現に向けた具体的なアクション

- 特産品認定制度の確立
- 特産品認定制度の運用
- 地元産商品の販売促進

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
B3

- 弟子屈産の食材を購入する

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町商工会
- ・ 弟子屈町（農林課、観光商工課）
- ・ JA 摩周湖
- ・ 事業者

## 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 料飲店組合

## 連携

- ・ みちえき摩周直売会

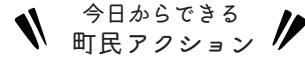
地元で採れたものを地元で使う地産地消を進めていくことは、移送にかかるコストや地球へのインパクトを軽減する「フードマイレージ\*の削減」や、地域内での取引が増えることによる「経済循環の促進」、災害時に強いまちづくりの礎となる「自給率の向上」など多くのメリットがあります。旅行者にとっても、その土地の食材を味わうことは旅の楽しみのひとつ。おいしい食は満足度の向上や再訪意欲につながる大切な要素です。より多くの事業者が地元食材を積極的に活用できるよう、まずは実態とニーズを丁寧に調査し、地産地消の強化に向けた仕組みづくりを推進します。

\* フードマイレージ：用語解説 p.59 参照



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 弟子屈産食材利用に関する事業者の実態調査
- 事業者実態調査に基づく、弟子屈産食材利用促進



#### 今日からできる 町民アクション

JSTS-D  
B3

- 弟子屈産食材を使って料理する
- 弟子屈産食材を積極的に使っている飲食店を利用する

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（農林課、観光商工課）
- ・ JA 摩周湖
- ・ 弟子屈町商工会

##### 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 料飲店組合
- ・ てしかがえこまち推進協議会

##### 協力

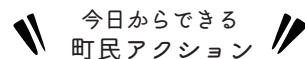
- ・ みちえき摩周直売会

IT化が進み、工学技術が発達しても機械化できないのが観光業です。働く人の環境を整え、生きがいを持って働ける職場づくりは観光業にとって何より大切なことです。高い離職率や人材不足は、単に新たな働き手を確保するだけでは解決できません。今、観光の現場で本当に困っていることは何か、雇用や働きがい、経営に関して何が必要とされているのか、現状をしっかりと把握し、働きやすい職場づくりを支援していきます。また、働く方々の住宅確保の対策も進めていきます。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 観光事業者の困りごと・雇用や働きがい・経営に関する実態調査の実施
- 各種研修会の開催
- 働きやすく活躍できる雇用形態の検討
- 従業員用住宅の確保



#### 今日からできる 町民アクション

JSTS-D  
B2

- 小売店、飲食店、宿泊施設などでの気持ちのいい対応には、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町商工会
- ・ 摩周湖観光協会（DMO）
- ・ 弟子屈町（観光商工課）

##### 連携

- ・ 川湯温泉旅館組合

##### 協力

- ・ 各観光事業者

## 誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザイン（※）の普及

対応 JSTS-D

多様な人々が暮らす現代において、今後も高齢者や障がいのある方、さまざまなニーズを持つ方への対応が求められています。全ての人に使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン：以下、UD という）の普及は観光地の責務であると同時に、町民にとっても「暮らしやすいまち」の実現に繋がります。

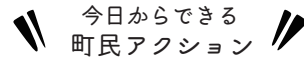
UD の理解促進と普及に加え、観光地として「できること」と「できないこと」の正確な情報発信を行います。

※ユニバーサルデザイン（UD）…年齢、性別、文化、身体状況など、人々のさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、モノ、仕組み、サービスなどを提供していかうとする考え方のこと。



## 実現に向けた具体的なアクション

- UD に対する現状、問題点の把握
- UD 情報の発信
- UD の考え方を踏まえた施設のバリアフリー化改修に対する補助制度の創設など普及促進の仕組みづくり
- UD に関する理解の促進

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
B8

- 困りごとがありそうな旅行者への声かけ
- 使いやすさに対するアイデアや意見を届ける  
(窓口：弟子屈町役場 福祉課)

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町  
(観光商工課、福祉課、建設課)
- ・ てしかがえこまち推進協議会

## 連携

- ・ 摩周湖観光協会 (DMO)

## 協力

- ・ 各観光事業者

## 長期滞在を促進する受入体制の整備

対応 JSTS-D

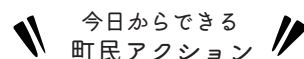
避暑地としての実績を持つ道東において、リモートワークの普及は地方の優位性をさらに高めました。「暮らすように旅する」という新たな価値観が、滞在スタイルや暮らし方の変容をもたらしています。弟子屈町にとって長期滞在者の増加は、地域に活気をもたらす「交流人口」の拡大に繋がる重要な要素です。施設の整備や滞在プログラムの造成など、ソフトとハードの両面から、長期滞在しやすい受入環境の整備を進めます。



## 実現に向けた具体的なアクション

- 長期滞在プログラムの造成
- 長期滞在の施設整備に対する支援の充実
- Wi-Fi 環境の充実
- コワーキングスペース\*の充実

\* コワーキングスペース：用語解説 p.58 参照

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
B8JSTS-D  
A11

- 長期滞在の旅行者と出会う機会があればあいさつや声かけを行う

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町 (観光商工課)
- ・ 各観光事業者

## 連携

- ・ 弟子屈町商工会
- ・ 摩周湖観光協会 (DMO)

# C

## 文化の持続可能性

### 基本施策とアクションプラン

弟子屈町民の暮らしや文化は、先人達の積み重ねてきたこの地の歴史そのものです。刻まれてきた歴史や文化を学び、旅行者や住民に伝え、継承する活動は、この地で暮らす人々の誇りや郷土愛を生み、共通の心の拠りどころとなるものです。

世界中の多くの地域でも、文化や歴史がその地の魅力となり、多くの旅行者が訪れることで、住民の誇りの醸成や文化の継承につながる事例が数多くあります。弟子屈町でも、文化の持続可能性を推進することで、観光が地域の歴史や文化の継承に貢献し、次世代の担い手育成に寄与できることを目指します。

#### 基本施策Ⅰ 文化や歴史を尊重する観光を促進

弟子屈町ならではの文化や歴史、暮らしを次の世代にも伝え、地域愛の醸成や、観光による継承への貢献を促進する取り組みを実施します。



C-AP1 地域のストーリーを伝える適切な研修制度の構築と旅行者への啓もう

C-AP2 観光の場における文化や歴史の伝承支援

#### 基本施策Ⅱ 文化遺産の観光拠点整備

「地域のストーリー」を伝えるために大切な展示施設についても、整備・改修、分かりやすい展示、それらの施設への誘客に繋がる取り組みを実施します。

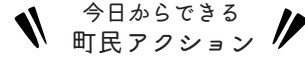


C-AP3 展示施設の適切な管理



アトサヌプリ（硫黄山）

自然資源に恵まれた弟子屈町は、古来よりアイヌの方々が多く暮らす地としても知られています。先住民の方々の暮らしや文化、開拓者としてこの地に鋤（くわ）を下した多くの入植者、硫黄採掘や温泉地の賑わいなど、この地の文化や歴史を後世に伝えていくことは地域のアイデンティティを確立するために不可欠な要素です。こうした「地域のストーリー」を伝え続けていくための学びの場を創出し、地域の歴史を残す活動を継続していきます。



- おじいちゃん、おばあちゃんに聞いた話を子ども達に伝える
- 地域の歴史に関する出版物を読んでみる（弟子屈町史、むかし語りなど）

JSTS-D  
C3JSTS-D  
C8JSTS-D  
A8

## 実現に向けた具体的なアクション

- 地域住民への学びの機会を創出する
- 聞き書きなど地域の歴史を残す活動の継続

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

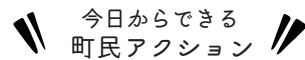
- ・ 弟子屈町教育委員会
- ・ てしかが郷土研究会
- ・ てしかがえこまち推進協議会

## 連携

- ・ 小中高校
- ・ 各観光施設

この場所で暮らしていたアイヌの方々、遠く本州より開拓に入り、町の礎を築いた方々、さまざまな人の暮らしが重なり合い、この地の文化と歴史が刻まれてきました。それはこの町の大切な宝でもあります。

旅行者にとっても、文化や歴史はその町の魅力の一部。語り部（かたりべ）や専門家がこれらを正しく伝えることで、関心を持つ人が増え、継承に対する経済的な貢献も期待できます。弟子屈町の無形文化遺産の披露の場も、積極的に創出していきます。



- 地域のイベントに足を運ぶ
- 屈斜路コタンアイヌ民族資料館や、川湯ビジターセンターなどを訪れてみる

JSTS-D  
C1JSTS-D  
C3JSTS-D  
C7JSTS-D  
C8

## 実現に向けた具体的なアクション

- 語り部（かたりべ）の養成
- 学芸員などの専門家登用
- 無形文化遺産の観光における披露

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町教育委員会
- ・ てしかがえこまち推進協議会

## 連携

- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

## 展示施設の適切な管理

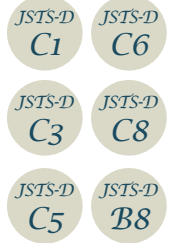
対応 JSTS-D

歴史や文化など「地域のストーリー」を伝えるための各施設は、地域住民と旅行者の双方にとって大切な存在です。

現在ある「屈斜路コタンアイヌ民族資料館」「弟子屈町ふるさと歴史館」「大鵬相撲記念館」などの文化施設は、今後も適切に管理し、必要な補修や改修を行いながら分かりやすい展示を行っています。

今日からできる  
町民アクション

■ 展示施設へ行ってみる



### 実現に向けた具体的なアクション

- 旅行者への分かりやすい展示と多言語化
- 展示施設への誘客促進

### 主に誰が事業を実施していくか

#### 所管

- ・ 弟子屈町教育委員会
- ・ 弟子屈町（観光商工課）

#### 連携

- ・ てしかが郷土研究会

#### 協力

- ・ 小中高校
- ・ 各観光施設



5月、牧草地とエゾヤマザクラ



6月、アトサヌプリ山麓・つつじヶ原のイソツツジ



1 アドナメグリの歴史伝承（地域の小学生に向けたレクチャー）

# D

## 環境の持続可能性

### 基本施策とアクションプラン

阿寒摩周国立公園に位置する弟子屈町は、アトサヌプリ（硫黄山）や屈斜路湖、摩周湖を擁し、豊かな生態系が広がります。「持続可能な観光」では、観光がもたらす自然や地域への負の影響をなるべく軽減させ、保護と利用の好循環を促進することが重要とされています。弟子屈町でも自然資源を守りながら活用すること、ゴミや温室効果ガス、水質、生物多様性などの観点から地域に与える負の影響を減らすことを目指し、取り組みを進めていきます。

環境の持続可能性を推進することで、観光が地域の自然資源の保護と活用のバランスを生んでいる状態を目指します。

#### 基本施策Ⅰ 自然資源の保護と活用

豊かな自然や生態系の「保全と活用の両立」を図るために定めた地域の指針「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」を通じ、地域全体でエコツーリズムを推進します。また、活用により自然環境のバランスが崩れていないか、さまざまなモニタリングを通して確認しながら、生物多様性の保全を推進します。



- D-AP1 エコツーリズム推進全体構想を活用した、エコツーリズムの推進
- D-AP2 自然環境のモニタリングの実施
- D-AP3 生物多様性の保全の推進

#### 基本施策Ⅱ 環境負荷の軽減

観光によって生じる環境への負荷を軽減するための取り組みを推進します。温室効果ガスの排出量が少ない移動の推進やトレイルの整備、再生可能エネルギーの導入、ゴミ排出量の削減、水質向上に向けた取り組みなど、町民、事業者、旅行者がそれぞれの立場で実践できる具体的なアクションを通じ、環境負荷の軽減を図ります。



- D-AP4 環境負荷が少ない移動の推進
- D-AP5 脱炭素に向けた取り組み促進
- D-AP6 廃棄物やプラスチックの使用を減らす取り組み促進
- D-AP7 水質向上のための取り組み促進

## D-AP 1

D 環境の持続可能性 > 基本施策 I 自然資源の保護と活用

### エコツーリズム推進全体構想を活用した、エコツーリズムの推進

対応 JSTS-D

エコツーリズムとは「地域ならではの特色」を活かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのこと。弟子屈町ではエコツーリズムを推進するための指針を定め、2016年には北海道で初めて、国の「エコツーリズム推進全体構想認定地域」となりました。

2019年からは全体構想の枠組みを利用し、独自の立ち入り制限をかけることにより、アトサヌプリ（硫黄山）でのガイド付きのツアーを実施しています。今後も弟子屈町の資源である豊かな自然を生かした「エコツアー」を推進することで、弟子屈の自然に関心を持つ旅行者を増やし、環境の保全につなげていきます。

#### 実現に向けた具体的なアクション

- エコツーリズム推進全体構想の改訂
- トレイルルートの整備・延伸
- トレイルの利活用促進
- アトサヌプリトレッキングツアーの磨き上げ
- エコツーリズム推進に関わる広報活動の充実

今日からできる  
町民アクション

■ カヌー、サイクリング、トレッキングなど町内で行われているエコツアーへ参加する

JSTS-D  
D1

JSTS-D  
D3

JSTS-D  
D2

JSTS-D  
D4

JSTS-D  
C8

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（観光商工課）
- ・ てしかがえこまち推進協議会
- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

##### 連携

- ・ 環境省
- ・ 北海道東トレイル運営事務局

##### 協力

- ・ 釧路川源流域ネットワーク
- ・ てしかがトレイルクラブ

## D-AP 2

D 環境の持続可能性 > 基本施策 I 自然資源の保護と活用

### 自然環境のモニタリングの実施

対応 JSTS-D

豊かな自然を適切に活用し、多様な生態系を次世代に継承していくため、弟子屈町では「エコツーリズム推進全体構想」で定められたモニタリングや、摩周湖での環境モニタリング、屈斜路湖での水質モニタリングなど、さまざまな環境モニタリングを実施しています。これらのモニタリングを今後も継続的に行い、その結果については定期的な検証や公表を実施していきます。

#### 実現に向けた具体的なアクション

- 定められたモニタリング
- モニタリング結果の定期的な検証と公表

今日からできる  
町民アクション

■ 摩周湖の水質調査のクラウドファンディングに協力する

JSTS-D  
D1

JSTS-D  
D4

JSTS-D  
D9

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町（環境生活課、観光商工課）
- ・ てしかがえこまち推進協議会
- ・ 摩周湖観光協会（DMO）

##### 連携

- ・ 環境省
- ・ 弟子屈町振興公社
- ・ 玉川大学

##### 協力

- ・ 釧路川源流域ネットワーク
- ・ てしかがトレイルクラブ

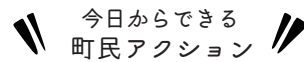
生物多様性は、複雑なバランスで成り立っている貴重な自然を守るためにはとても重要です。弟子屈町にも多くの野生生物が生息していますが、その中にはシマフクロウやタンチョウ、イトウなど環境省が絶滅危惧種と定める希少な動植物も含まれています。これらの野生生物を保護する上で懸念されるのが、在来種を脅かす外来種の繁殖や、環境の悪化などによる生息地の減少、事故を誘発する餌付け行為、乱獲などです。

多くの野生生物が弟子屈町で今後も生息していけるように、野生生物の生息に関する調査と外来種駆除、マナー啓発などを続けていきます。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 野生生物のモニタリング調査
- 外来生物、外来植物の駆除
- 野生生物との関わりについてのマナー啓発



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
D3JSTS-D  
D4JSTS-D  
D5

- 外来種の駆除活動へ参加する
- 敷地内のオオハンゴンソウなどの外来種を除草する
- 野生の動物に近寄らない、餌をやらない

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町  
(環境生活課、農林課、観光商工課)
- ・ 環境省

##### 連携

- ・ 観光事業者
- ・ 屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会
- ・ てしかがトレイルクラブ

##### 協力

- ・ 町民

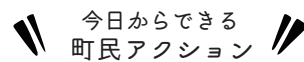
手つかずの自然が多く残る一方で、空港から遠く、公共交通手段の少ない弟子屈町では、旅行客の移動手段はレンタカーが主軸です。環境への負荷が少ない移動手段である自転車、公共交通機関のJRやバスをより多くの方に選択していただけるよう、利活用を促進していきます。また、徒歩での移動を推奨するため「摩周・屈斜路トレイル」のルート延伸を行います。

環境負荷の少ない電気自動車は、現在も摩周湖や硫黄山駐車場での料金が無料となっていますが、充電場所をさらに充実させることで利活用を促進し、旅行者の移動による温室効果ガス排出量の削減を目指します。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 周遊バスの利活用促進
- トレイルの利活用促進 ※ D-AP1 にも掲載
- JR 釧網本線の利活用促進
- レンタサイクルの利活用促進
- 電気自動車の充電場所の充実



今日からできる  
町民アクション

JSTS-D  
D13

- 歩いて通学や通勤する
- 自転車に乗って買い物へ出かける
- エコドライブを心がける
- 移動に JR やバスを使ってみる

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町 (環境生活課、まちづくり政策課、観光商工課)

##### 連携

- ・ 環境省
- ・ 自然公園財団
- ・ レンタサイクルやガイドを行う民間事業者

##### 協力

- ・ てしかがトレイルクラブ

## 脱炭素に向けた取り組み促進

対応 JSTS-D

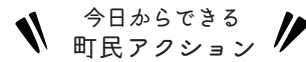
森林資源に恵まれた弟子屈町においては、町全体の温室効果ガス排出量は、森林の吸収量を下回っています。ゼロカーボンシティを宣言している弟子屈町において、地球規模の問題に向き合うため、町としての排出量を正確にモニタリングし、排出を抑制していくための取り組みを継続することが欠かせません。観光業においても、国立公園の「ゼロカーボン・パーク」化に合わせ、再生可能エネルギーへのシフトや省エネを進めていきます。また、弟子屈町内の森林により生み出されるカーボンクレジット\*を事業者や旅行客が利用できる仕組みを構築します。

\* カーボンオフセット/カーボンクレジット：用語解説 p.58 参照



## 実現に向けた具体的なアクション

- 温室効果ガス削減の取り組みを行っている観光事業者の調査および調査結果の公表
- 再生可能エネルギーや省エネ化を推進するための研修会の実施
- 宿泊施設の省エネ化を推進するための補助制度の拡充
- カーボンオフセット\*の仕組みの啓発と活用

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
D7

- 自宅の照明を LED に交換する
- 車や家電を買い替える際は、エコカーや、省エネ家電を選択する
- 再生可能エネルギーを利用した電力会社へ契約を切り替える

JSTS-D  
D12

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町  
(環境生活課、農林課、観光商工課)
- ・ てしかがえこまち推進協議会

## 連携

- ・ 環境省
- ・ 観光事業者
- ・ 摩周湖観光協会 (DMO)

## 協力

- ・ 町民

## 廃棄物やプラスチックの使用を減らす取り組み促進

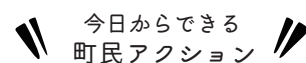
対応 JSTS-D

町全体でゴミの排出量を減らし、環境に負荷をかけない取り組みを進めていきます。特に使い捨てのプラスチック製品の使用を減らすことで、地球規模での資源保全に貢献し、環境に配慮した観光地としての姿勢を明確にします。脱プラスチックと並行し、フードロス削減も呼びかけます。また、現在は道の駅摩周温泉のみで実施している「旅行者のゴミ回収」や、旅行者が水を汲める「給水ポイント」についても協力事業者を増やし、地域一体となった廃棄物削減に取り組めます。



## 実現に向けた具体的なアクション

- 旅行者のゴミ回収への協力事業者の拡充
- 使い捨てプラスチックの使用削減の推奨
- フードロス削減への呼びかけ
- 給水スポットの充実

今日からできる  
町民アクションJSTS-D  
D3

- 使い捨てプラスチック製品をなるべく買わない
- 日用品にリサイクル製品や長く使える製品を活用する
- 自宅の周りのゴミを拾う
- お出かけにマイボトルを持参

JSTS-D  
D9JSTS-D  
D11

## 主に誰が事業を実施していくか

## 所管

- ・ 弟子屈町 (観光商工課、環境生活課)
- ・ てしかがえこまち推進協議会
- ・ 摩周湖観光協会 (DMO)

## 連携

- ・ 環境省
- ・ 観光事業者

## 協力

- ・ 町民

屈斜路湖や摩周湖、釧路川など豊かな水資源は弟子屈町の宝です。湧き出た水は、周辺市町村を潤し、海の生態系にも影響を及ぼします。美しい水を後世まで使い続けていくことは、町民のためであることはもちろん、上流域に位置する自治体としての責務でもあります。そのためには、水質の変化に気を配り、水を汚さないための取り組みが必要不可欠です。

現在行われている屈斜路湖での水質モニタリングを継続して実施していくことに加え、排水のシステムを整える「仕組みの変換」と、排水の中身を変えていく「意識・行動の変換」の両面から、水質向上の取り組みを推進します。



#### 実現に向けた具体的なアクション

- 水質のモニタリング
- 浄化槽設置に対する補助
- 生分解性石けんの使用促進

#### 今日からできる 町民アクション

- 下水道への接続や浄化槽の設置
- 自然に還る石けんや洗剤を使う
- 食器洗いの前に油分をふき取る

JSTS-D  
D9JSTS-D  
D10

#### 主に誰が事業を実施していくか

##### 所管

- ・ 弟子屈町  
(環境生活課、観光商工課、水道課)

##### 連携

- ・ 観光事業者
- ・ 川湯温泉旅館組合
- ・ 環境省



和琴半島先端より望む屈斜路湖とオヤコソ地獄

# 4

## \ 第 4 章 /

# アクションプランを後押しする 組織と取り組み、財源

## アクションプランを後押しする弟子屈町の組織

### 一般社団法人 摩周湖観光協会（地域 DMO）

1999年（平成11年）に、社団法人 摩周湖観光協会として活動を開始し、公益法人法の改正に伴い、2014年（平成26年）、一般社団法人 摩周湖観光協会へ移行登記しました。2016年（平成28年）に日本版 DMO 候補法人へ登録、2022年には観光地域づくり法人（DMO）へ登録されました。

#### 役 割

弟子屈町および弟子屈町を中心とする地域の観光宣伝、観光客誘致促進、観光施設の管理運営、観光関係者の資質の向上などに努めることで、観光事業の健全な発展を図り、町民生活や文化の向上および地域産業経済の発展に寄与することを目的としています。

令和8年以降はDMOとして、観光庁の新たなガイドラインののっとり、データに基づくマーケティングやプロモーション戦略、自主財源の確保による組織の自立化を図るとともに、観光客の満足度のみならず、持続可能な観光に対する住民満足度や1人あたり旅行消費額の向上を重要な指標（KPI）として掲げ、弟子屈町特有の豊かな自然資源を背景としたエコツーリズムを深化させ、「稼ぐ力」と「守る力」を両立させた持続可能な観光地域づくりの中核を担っていきます。

#### 定款で定められた主な事業

- 1) 観光客の受入れ対策に関する事業
- 2) 観光客の誘致および観光宣伝に関する事業
- 3) 観光イベントの実施、支援および誘致に関する事業
- 4) 地方公共団体などの施設の運営受託に関する事業
- 5) その他この法人目的を達成するために必要な事業

#### 主な事業

- 地域観光マネジメント、マーケティング
- 情報発信・プロモーション
  - ・観光公式サイト（弟子屈なび）運営
  - ・SNS（facebook、Instagram、LINE、X）
  - ・商談会、展示会、海外プロモーション
- 旅行業法に基づく地域限定旅行業
- 弟子屈町 地域づくり視察プログラム受入
- 観光関連の研修やセミナーの開催
- 各補助事業を活用した業務
- 観光関連の研修やセミナーの開催
- パンフレット、ポスターなどの作成および配布
- 弟子屈町ふるさと納税返礼品発送業務
- 観光案内所の運営  
(JR摩周駅、道の駅摩周温泉、川湯ビジターセンター)
- その他の観光施設の管理運営業務
- 各団体および事業者の支援
- イベント主催
- 弟子屈フォトコンテスト開催

#### 弟子屈町観光経済戦略会議の開催

本町の主要産業である観光業の振興を図り町全体で稼ぐため、観光に関する各種指標やKPI、経済団体の保有する経済情報や具体的な振興策などの情報共有を行い、本町が今後進むべき方向性や各団体による連携の意思決定および役割分担の整理確認を行います。

#### 構成員

- 弟子屈町
- 弟子屈町商工会
- 摩周湖農業協同組合
- 釧路信用金庫
- 北洋銀行
- 摩周湖観光協会（事務局）

## 住民主体のまちづくり団体

てしかがえこまち推進協議会は「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指し、観光を基軸としたまちづくりを進める住民主体の団体です。誰もが参加でき、町内のあらゆる組織を包括した協議会として、2008年（平成20年）に発足しました。

## エコロジーとエコノミー

「えこまち」の「えこ」は、ecology（環境保全）とeconomy（経済）の2つの意味があります。

観光を基軸に、農業、商業、工業、流通、交通などさまざまな分野が活気づき、町の中で人やモノ、お金が循環するような仕組みを考え、実践していきたいという思いが込められています。自分の町に誇りを持ち、一人ひとりが生き生きと暮らせる地域づくりを行うことで魅力ある観光地をつくりあげていく、そして多くの産業に波及効果が見込まれる観光業を活性化させることで、町の経済を盛り立てたいとさまざまな活動を行っています。

## 組織

協議会の会長を弟子屈町長、副会長を商工会長と観光協会長、事務局を弟子屈町役場および摩周湖観光協会が担う体制となっていますが、活動の主体は、住民だけで構成される7つの専門部会です。このほか、構成団体として町内のさまざまな組織が関わっています。

### ▶ 会長は町長

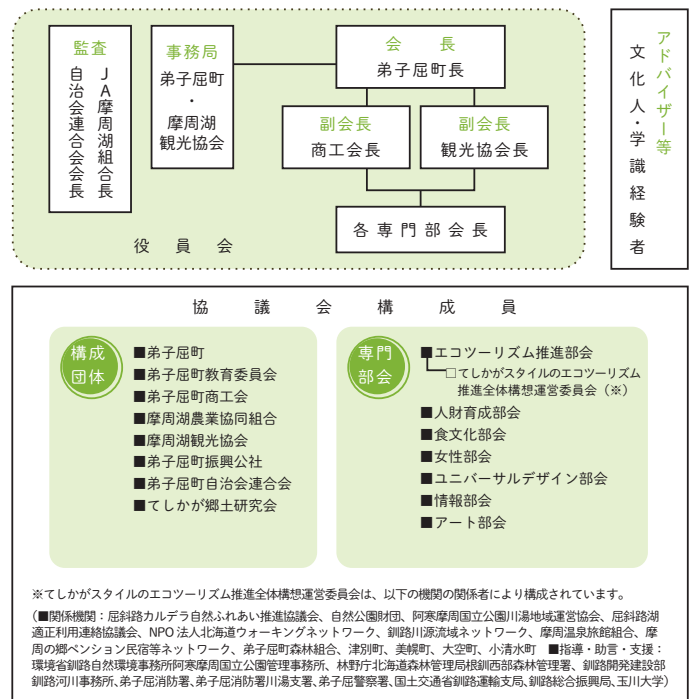
活動を公的なものと位置付けるため、協議会会長は町長が務めています。

### ▶ 活動の主体は町民

7つの専門部会は、会社員、自営業、農業、主婦、役場職員などさまざまな職種の町民によって構成されています。

観光地域づくりに必要な、町民の意見やアイデアを集約できる場として貴重な存在となっています。

## てしかがえこまち推進協議会 構成図



## 主な活動

各専門部会では、それぞれに定める「部会目標」に沿って、さまざまなイベントや講習会の開催、企画、印刷物の発行などを行っています。また、これらの専門部会ごとの活動の他に、協議会全体としての取り組みもあります。

### 各専門部会

- エコツーリズム推進部会
- 人財育成部会
- 女性部会
- 食文化部会
- ユニバーサルデザイン部会
- 情報部会
- アート部会

### 協議会全体での活動

- てしかが観光塾の開催（年1回）
- 合同専門部会の開催（1～3カ月に1回）
- エコツーリズムの推進
  - ・エコツーリズム推進全体構想の運用
  - ・運営委員会の開催
- その他
  - ・視察対応
  - ・講演
  - ・各種会議への参加

協議会は、弟子屈町民であれば誰でも加入することができます。詳細は事務局までお問い合わせください。

てしかがえこまち推進協議会事務局



弟子屈町役場 観光商工課内  
**015-482-2940**  
 Email:  
 ecomachi@masnyuko.or.jp

## アクションプランを後押しする取り組み

持続可能な観光地域づくりを進めていくにあたり、各種アクションプランの推進力となる取り組みをご紹介します。観光政策は種まき。収穫までの行程に近道はなく、小さな積み重ねがとても大切です。

### 主な取り組み

- 国立公園満喫プロジェクト
- てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想
- 企業との連携協定
- 水のカムイ観光圏
- ゼロカーボン
- 持続可能な観光推進協議会

## 国立公園満喫プロジェクト

### 日本の国立公園を、世界の旅行目的地に

「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき環境省が進めるのが「国立公園満喫プロジェクト」。日本の国立公園を世界水準のデスティネーションにするため、阿寒摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園の先行する全国8公園を中心に、全国35公園で、インバウンド誘客に対する取り組みを計画的・集中的に実施しています。

### 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2030

阿寒摩周国立公園における利用推進の方向性および具体的な楽しみ方のイメージである「3つのカルデラと湖、そして原生自然から感じとるカムイの存在」を踏まえ、新たに策定される『阿寒摩周国立公園ステップアッププログラム 2030』に基づき、国内外の旅行者がこの圧倒的な自然の価値を深く体験できる「世界水準の国立公園」を目指します。保護と利用の好循環を軸に、さらなる高付加価値化に向けた各種事業を強力に推進します。

#### 2025年までの主な成果

- アドベンチャートラベルの推進
  - ・ AT ツアーの造成
  - ・ 川湯温泉街の再生、ブランド化の確立
- 国立公園の新たな活用
  - ・ 北海道東トレイルの整備
  - ・ 摩周屈斜路トレイルのルート延伸
- 官民連携による民間投資の促進
  - ・ 川湯温泉街廃屋撤去と、その後の民間投資
  - ・ 摩周湖および硫黄山レストハウスのリニューアル
- 快適な公共空間の整備
  - ・ 川湯ビジターセンターの整備
  - ・ 温泉川周辺の空間整備  
(川湯温泉岩盤テラス、遊歩道)

#### 2030年に向けた取り組み

- アドベンチャートラベルの推進
  - ・ AT ツアーの拡充
- 川湯温泉街まちづくりマスタープランに基づく温泉街再整備
  - ・ 廃屋撤去と、その後の民間投資
  - ・ 景観ガイドラインのルール策定
- トレイルネットワークの形成
  - ・ 摩周屈斜路トレイルのルート拡充
  - ・ 北海道東トレイル
- 自然の付加価値を高める新たな利活用
  - ・ 多言語化看板の設置個所の増加
- 持続可能な観光の推進
  - ・ GSTC に関する講習会の開催

## 北海道で初めての全体構想認定地域に

エコツーリズムとは「地域ならではの特色」を活かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのことを指します。「地域ならではの特色」には、地域固有の自然環境や歴史、文化などが挙げられ、旅行者がこれらを体験しながら学ぶ「エコツアー」に参加することで、環境と経済の好循環が生まれることが期待されています。

弟子屈町では、てしかがえこまち推進協議会を中心に、エコツーリズムを推進するための地域の指針「全体構想」を策定し、2016年（平成28年）に国の認定を受けました。これにより全国で8番目、北海道では初めての「全体構想認定地域」となっています。

### 全体構想策定による成果

- 弟子屈町の自然観光資源の定義づけが完了（p.6 参照）
- エコツアーのルールを策定
- 特定自然観光資源として「硫黄山の噴気孔」を指定
- アトサヌプリを立入制限区域に指定
- 認定ガイド制度の創設
- アトサヌプリトレッキングツアーの実現
- 運送法の規制緩和の適用により、エコツアー参加者の送迎が可能に
- 国立公園満喫プロジェクトに選定（p.47 参照）
- 第18回エコツーリズム大賞を受賞 ※1
- Green Destinations TOP100 STORIES 2023 に選出 ※2

### 事業実施に関わる団体

（主管）

てしかがえこまち推進協議会内  
てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想  
運営委員会

（構成団体）

屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会・自然公園財団・阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会・屈斜路湖適正利用協議会・釧路川源流域ネットワーク・摩周温泉旅館組合・摩周の郷ペンション民宿等ネットワーク・弟子屈町森林組合・津別町・美幌町・大空町・小清水町

※1

#### 第18回エコツーリズム大賞

てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想では、特に保全が必要な固有の資源として、2020年にアトサヌプリ（硫黄山）の噴気孔を「特定自然観光資源」に指定し、アトサヌプリをエコツーリズム推進法第19条に基づく立ち入り制限区域に指定しました。同時に、てしかがえこまち推進協議会の定める基準をクリアした認定ガイドの引率の下でのみ、アトサヌプリへの登山が認められる仕組みを整備。登山ツアー（アトサヌプリトレッキングツアー）は地域DMOである「一般社団法人摩周湖観光協会」が主催し、2020年より販売されています。なお、ツアー代金の一部は、自然保護や整備に充てられています。

2023年2月、これらの取り組みが評価され、アトサヌプリトレッキングツアーは環境省および（一社）日本エコツーリズム協会共催で行われた「第18回エコツーリズム大賞」を受賞することができました。



※2

#### Green Destinations TOP100 STORIES

2023年10月、持続可能な観光地を認証・表彰するオランダの国際認証団体「グリーン・デスティネーションズ（Green Destinations）」が実施する「TOP100 ストーリーアワード」において、世界の観光地100選に選出されました。このアワード制度は、観光地に必要な15の基準への適合性（サステナビリティチェック）と、特に優れたストーリー（グッドプラクティスストーリー）審査の2つから構成されています。

弟子屈町は、サステナビリティチェックにおいて、自然資源の保護やエコツーリズム推進の取り組み、住民と行政、DMOが一体となったマネジメントが特に高い評価を得ました。ストーリー審査では、エコツーリズム推進全体構想を活用したアトサヌプリトレッキングツアーの仕組みを紹介し、長年にわたる官民連携の仕組みや自然保護の姿勢が、他地域の参考になる取り組みとして評価され、受賞につながりました。



## 企業との連携協定

### 阿寒摩周国立公園川湯温泉廃屋撤去跡地における宿舎事業実施協定

2023年（令和5年）2月、環境省、弟子屈町、株式会社星野リゾートは、「阿寒摩周国立公園川湯温泉廃屋撤去跡地における宿舎事業 事業実施協定書」を締結しました。これは、国立公園満喫プロジェクトの一環として、阿寒摩周国立公園川湯集団施設地区において、環境省および弟子屈町が廃屋となったホテルなどの解体撤去を行い、その跡地を対象として環境省が新たな宿舎事業者の公募を行った結果、星野リゾートが落札したことから、今後の宿舎事業について連携・協力を行うために締結したものです。

協定の締結により、老朽化した温泉街の再整備と星野リゾートのブランド力を活用した観光振興を図るための官民連携プロジェクトが進行しています。

### 阿寒摩周国立公園活性化に向けた摩周エリア観光資源磨き上げ連携協定

2021年（令和3年）3月、弟子屈町は、株式会社地域経済活性化支援機構（REVIC）、環境省、北海道、北洋銀行株式会社、釧路信用金庫および北海道エアポート株式会社との7者で「阿寒摩周国立公園活性化に向けた摩周エリア観光資源磨き上げ連携協定」を締結しました。連携協定の締結により、それぞれが有するノウハウやネットワークを最大限活かし、弟子屈町をはじめとした摩周エリアにおける観光資源を磨き上げ、国内外の旅行者の誘致と広域連携の促進、観光消費額などの増大を図ることで観光産業の発展と持続可能な観光地域づくりを推進しています。

### 公設野営場の連携に関する協定

2019年（令和元年）12月、環境省、北海道、弟子屈町は、それぞれが整備したキャンプ場の管理運営について連携・協力するため「阿寒摩周国立公園及び弟子屈町内の公設野営場の連携に関する協定」を締結しました。民間企業との連携により公設キャンプ場のサービス向上および国立公園の自然を活かした地域活性化につながることを期待し、連携協定の締結後、それぞれの設置した国立公園内および周辺のキャンプ場3箇所の管理を株式会社 Recamp が一括して担うこととなりました。

これにより、和琴野営場が RECAMP 和琴へ、砂湯野営場が RECAMP 砂湯へ、桜ヶ丘森林公園オートキャンプ場が RECAMP 摩周へとそれぞれ名称変更され、2020年（令和2年）6月より新たな体制・サービスでの運用を行っています。

## 水のカムイ観光圏

### 釧路市と弟子屈町からなる広域観光圏

水のカムイ観光圏は、釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園、希少で貴重な自然と生態系を持つ2つの国立公園を有する広域観光圏です。圏域において一体的に観光地域づくりを推進することを目的に、「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏（2010～2014年度）」、「水のカムイ観光圏（2015～2019年度、2020～2024年度、2025年度～第3期）」として認定を受け、弟子屈町および釧路市、観光関係団体、交通事業者など官民の連携による協議会を組織し、地域一体となった取り組みを展開してきました。長年の取り組みにより、圏域におけるWi-Fi環境の整備が進み、観光客も増加するなどの成果も出ています。

#### 令和7年度までの取り組み

- アドベンチャートラベルの推進
- 観光圏ホームページ・SNSによる情報発信
- 全国観光圏マーケティング調査（来訪者満足度、旅行消費額など）
- セミナー開催などを通じた人材育成
- Wi-Fi環境の整備
- イベントプロモーション

#### 水のカムイ観光圏協議会

##### 総 会

【実施計画の策定、事業計画などの意思決定】

##### 幹 事 会

【実施計画に基づく事業内容などの調整】

##### 地域連携 DMO：観光地域づくりプラットフォーム

（一般社団法人釧路観光コンベンション協会：事務局）

【実施計画に基づく事業企画立案、実施、調整】

### ゼロカーボンの推進

弟子屈町では、2015年に策定された「弟子屈町温暖化対策実行計画」に基づき、二酸化炭素排出量を抑えるさまざまな取り組みを行ってきました。2021年には、2050年までに二酸化炭素排出量をゼロにすることを旨とする「てしかがゼロカーボンシティ宣言」が表明されています。

### てしかがゼロカーボンシティ宣言

近年、地球温暖化の進行やその影響による異常気象から、世界的に甚大な自然災害が頻発しています。弟子屈町でも経験のない集中豪雨が発生するなど、気候変動が日常の生活を脅かす事態が起こり始めています。

弟子屈町としてもこの危機的状況に向き合い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みを強化することとしました。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2°C未満とし、1.5°Cに抑えるように努力する」との目標が国際的に共有されています。さらに2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告では、「気温上昇を2°Cより低い1.5°Cに抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の排出量をゼロにする必要がある」と示されています。

弟子屈町では、これまでも公共施設では、豊富な温泉の温泉熱を活用した暖房設備や雪氷冷熱を活用した冷房設備、地中熱を活用した冷暖房設備などを推進し、一般家庭でも温泉を活用した浴用・暖房設備を推進してきました。

また、農業では温泉熱を活用した温室栽培や、バイオガスエネルギーでの発電に取り組み、観光でも脱炭素の電気自動車活用や二酸化炭素の影響調査のため、町を代表する景勝地である摩周湖への、自家用車交通規制、BDFバス運行などの先駆的実験も実施してきたところです。

今後は、さらに地熱を利用した発電事業など、環境に配慮し持続可能なまちづくりのため、積極的な温暖化対策に取り組みます。

ここに弟子屈町は、弟子屈町温暖化対策実行計画を着実に実行し、2050年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指す「てしかがゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言いたします。

令和3年12月10日  
弟子屈町長 徳永哲雄

### ゼロカーボン・パークへの登録

ゼロカーボンパークとは、国立公園における電気自動車などの活用、国立公園に立地する利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消などの取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地域づくりを実現していくエリアのことです。

環境省では、国立公園において先行して脱炭素化に取り組むエリアを「ゼロカーボン・パーク」として推進しています。阿寒摩周国立公園では、2022年3月に釧路市が、6月に弟子屈町、美幌町、足寄町が新たにゼロカーボンパークに登録され、全国で初めて複数自治体の連携によるゼロカーボンパークとなりました。

## 持続可能な観光推進協議会

### 全国の自治体との連携協議会

2021年7月、弟子屈町は、持続可能な観光地域づくりを行う全国の7市町と共同で「日本『持続可能な観光』地域協議会」を設立しました。協議会においては、持続可能な観光に関する各種取り組みとして、専門家派遣や情報交流、セールスプロモーションなどを連携して実施。2024年度からは、後継となる「持続可能な観光推進協議会」へ参画し、引き続き全国の12自治体と連携しながら、研修や情報交換を行っています。

## 弟子屈町独自の観光財源について

### 財源については前期計画を踏まえ検討

本計画の各事業を安定的かつ持続的に推進するためには、従来の依存型財源から脱却し、自立的な観光財政基盤の確立が不可欠です。これまで活用してきた「クラウドファンディング型ふるさと納税」や各種交付金に加え、今後は「宿泊税」の導入検討や「環境協力金（入域料）」の仕組みづくりなど、受益と負担の適正化による新財源の確保に向けた検討を進めていきます。阿寒湖温泉や倶知安町などの先進事例や、2026年4月から北海道が行う宿泊税の動向を見極めながら、後期計画実施期間の中で、引き続き町民・事業者との丁寧な対話を重ねながら、観光の恩恵がダイレクトに地域に還元され、観光客へのおもてなしへとつながるよう、必要な財源確保を目指します。

#### (1) 町独自の課税制度のあり方を検討

- ・ 宿泊施設の高付加価値化の流れを踏まえて、定率制\*を基本方針として地域事情に則した検討を進めます。並行して、定額制\*\*についても徴収事務が容易であることから、検討材料として比較、協議を進めます。
- ・ 現行の入湯税見直し、超過課税（税率引き上げ）を適用することも選択肢として検討します。
- ・ 町の宿泊税と入湯税を一本化して徴収できる仕組みの構築についても検討を進めます。

#### (2) 財源の使途

観光客の受入環境やおもてなしの充実を最優先とし、それを支える事業者の設備更新などを支援する弟子屈町独自の制度を検討します。北海道の宿泊税充当事業の方向性を踏まえつつ、物価高騰によるコスト増をカバーする負担軽減策を講じることで、町全体で選ばれる観光地域づくりを目指します。

#### (3) 今後のスケジュール

2028年（令和10年）4月以降の施行を目標に設定したスケジュール案を進めます。

#### 2026年4月～北海道で宿泊税が導入されます

北海道では、旅行者（宿泊者）の利便性や満足度を向上させるために、2026年4月1日から宿泊税が導入されます。観光の付加価値の向上、観光に係るサービスおよび旅行者を受け入れるための体制の充実強化、災害などの観光分野における危機に対応するための取組の強化や観光の振興を図る施策に充当させることを目的としています。

税額は、1人1泊あたりの宿泊料金が2万円未満の場合は100円、2万円以上5万円未満が200円、5万円以上は500円となり、市町村独自の宿泊税が設定されている場合は、上乘せして徴収することになります。

#### 用語メモ

##### 【定率制\*】

定率制とは、宿泊料金に一定の割合（％）をかけて宿泊税を算出する方式です。

たとえば、「宿泊料金の2％」といった形で、宿泊料金に応じて税額が変わります。

このため「宿泊料金に応じた負担となる」「高額な宿泊ほど税額も高くなる」といった特徴があります。

宿泊料金ごとに税額が変わるため、利用者にとって分かりにくく感じられる場合や、宿泊施設側の事務負担がやや大きくなるという面もありますが、納税者の税負担の公平性を保てるという側面もあります。

##### 【定額制\*\*】

定額制とは、宿泊料金にかかわらず、1人1泊あたり一定の金額を宿泊税として負担していただく方式です。

定額制では、「1人1泊200円」といった形で金額があらかじめ決まっているため、「いくら支払うのかが分かりやすい」「宿泊施設や利用者にとって計算が簡単」といった特徴があります。

一方で、宿泊料金の高い宿泊でも低い宿泊でも同じ金額になるため、「宿泊料金に応じた負担」という考え方とは異なる点もあります。

# 5 \ 第5章/ 成果目標の設定

## 成果目標の考え方

「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」を  
グローバルな成果指標に。  
世界に通じる認証観光地を目指して ※下記参照



弟子屈町が持続可能な観光地を目指すにあたって、  
JSTS-Dの基準および、そのベースとなっている GSTC-D の  
グローバルな視点に基づき、成果目標の設定を行います。

Green Destinations など、GSTC の認定認証機関による  
表彰や認証の取得を目指し、取り組みを継続します。

JSTS-D の各項目に基づき  
進捗と成果を継続的に検証していきます。



ビジョン達成のためには、JSTS-D の項目にもとづき  
アクションプランの進捗と成果を継続的に検証する必要があります。

本計画による成果指標は右頁の通り定め、  
達成に向けた進捗については継続的に検証を実施します。  
また、JSTS-D のすべての基準に関する達成度の検証と、検証結果に基づく改善を実施し、  
「行きたいまち」「生きたいまち」の実現を目指します。

## 認証観光地

本計画に取り入れている JSTS-D は、国際機関である GSTC が承認した基準です。

GSTC は、基準を保有していますが、GSTC が観光地やホテル、ツアーオペレーターを直接認証するわけではありません。「GSTC 認証」の観光地やホテルになるためには、GSTC が認定した認証機関の審査を受ける必要があります（右図参照）。

認証を行う機関はさまざまありますが、GSTC が認定した観光地向けの認証機関は、2026年2月現在で、Green Destinations、EarthCheck、Vireo srl の3団体のみです。これらの認証機関は国際的な認知度も高く、経験を積んだ審査員による的確な審査を受けることで、地域の取り組みが国際基準に準拠したものであるか、正確に知ることができます。

なお、JSTS-D は GSTC が承認した基準（GSTC 基準に準拠したものであると証明された基準）ですが、認証制度ではないため、あくまでガイドラインとして使用するものになります。

【図】 GSTC と認証機関、承認基準について



出典： <https://www.gstc.org/> をもとに作図  
(2026年2月現在の状況であり、今後変更になる可能性もあります)

## 成果目標

弟子屈町が観光振興を通じて実現を目指す成果目標は、以下の通りです。これらの目標を確実に達成するため、各アクションプランにおいては、取り組みごとに具体的な到達指標と実施期間をきめ細かく設定しました。個別の施策がどのように成果に結びつくかについては、別冊の『弟子屈町観光振興計画 行動計画』に詳説しておりますので、併せてご確認ください。

【項目】	現状値 2024年	2026年	2027年	2028年	2029年	検証手法
観光消費額	193億円	221億円	224億円	229億円	236億円	弟子屈町観光統計 (旅行消費単価に基づく推計)
旅行消費単価	50,194円	50,841円	51,095円	51,351円	51,607円	水のカムイ観光圏調査 および DMO 調査
宿泊者数	176,808人	181,000人	185,000人	190,000人	200,000人	弟子屈町観光統計 (延べ宿泊者数調査)
観光入込客数	755,513人	755,000人	758,000人	768,000人	773,000人	弟子屈町観光統計 (観光入込客数調査)
来訪者総合満足度 「大変満足」の割合	22.9% ※ 2025年の数値	23.0%	23.1%	23.2%	23.3%	水のカムイ観光圏調査 および DMO 調査
来訪者の平準化率 年間入込客数における繁忙期の割合	45%	44%	43%	42%	40%	弟子屈町観光統計 (平準化率調査)
リピーター率	65.4%	66.0%	66.3%	66.6%	66.9%	水のカムイ観光圏調査 および DMO 調査
持続可能な観光推進についての 町民満足度	51%	52%	53%	54%	55%	町民アンケート調査
観光産業に携わる人の 平均給与額	未調査	↗	↗	↗	↗	アンケート など
弟子屈なびアクセス (PV)	82万	129万	130万	131万	132万	サイト解析データ
道の駅ランキング	4位 ※ 2025年の数値	TOP10	TOP10	TOP10	TOP10	じゃらんランキング
人気温泉地ランキング	72位 ※ 2025年の数値	↗	↗	↗	50位	観光経済新聞
Green Destinations など 国際認証・表彰	TOP100 Award	Green Destinations ブロンズ賞			Green Destinations シルバー賞相当	第三者認証機関 による審査
JSTS-Dに基づく 観光地アセスメント	実施	実施	実施	実施	実施	自己診断

# 6

## 第6章 /

# 観光振興計画策定の経過

### 前期計画策定時の経過

#### 2020年（令和2年）

時期	
2月	観光振興計画準備室の設置（摩周観光文化センター内）

#### 2021年（令和3年）

時期		対象（※1）	内容
1月	観光振興計画意見交換会	運協、観光協会	策定の背景、策定の進め方、ビジョンの方針、スケジュール、体制の方向性、策定に向けた課題の洗い出し（マネジメント・財源・マーケティング・受入整備）
2月	観光振興計画意見交換会	町議会、農協、商工会、振興公社、えこまち	
	観光振興計画策定会議	観光協会担当理事	”自然と人が共存する持続可能な観光地づくり（弟子屈の目指す100年続くまち）”というテーマでのワークショップ
3月	観光振興計画策定会議	観光協会担当理事	Cross SWOT分析を通じた発見の共有、戦略課題の検討
	観光振興計画策定会議	えこまち	アクションプランの頭出し
4月	観光振興計画策定会議	振興公社	アクションプランの頭出し
5月	観光振興計画策定会議	観光協会	アクションプランの頭出し
6月	観光振興計画策定会議	観光協会担当理事	観光振興計画（準備稿）の骨格共有
	観光振興計画策定会議	商工会	アクションプランの頭出し
	観光振興計画策定ワークショップ①	えこまち	アクションプランワークショップ
7月	観光振興計画策定ワークショップ②	えこまち	地域から集まったアクションアイデアの取り組み優先順位の整理とアクションプランへのブラッシュアップ
	観光振興計画策定会議	観光協会理事	観光振興計画（準備稿）の共有
9月	観光振興計画 実施稿に向けた関係各所との合意形成（計画内で「所管」「連携」と記載されたすべての団体）		
10月	観光振興計画スローガン決定 「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」		
	観光振興計画内 アクションプランの落とし込み／庁内関係課との調整		
11月	メインKPI、サブKPIの決定		
12月	観光振興計画 デザイン、校正		

#### 2022年（令和4年）

時期	
2月	観光振興計画 要約版の作成
3月	観光振興計画 説明会実施
	（一社）摩周湖観光協会が地域DMOへ登録
4月	弟子屈町観光振興計画 施行

## 後期計画策定時の経過

### 2025年（令和7年）

時期		対象（※1）	内容
9-10月	前期計画の検証		個別アクションの実施状況、KPI達成状況の確認
11月	ステークホルダーヒアリング	※2	前期計画の検証結果の共有 後期計画に向けたアンケートの実施
12月	説明会	えこまち	ステークホルダーヒアリングの結果公表 改訂の方針についての協議
	改訂方針会議	観光協会	改訂方針を反映したアクションプラン案を作成

### 2026年（令和8年）

時期		対象（※1）	内容
1月	アクションプラン案の検討を依頼	※2	後期計画アクションプラン案の共有と意見募集
	説明会	えこまち	アクションプラン案の共有と意見募集の結果共有
2月	弟子屈町観光経済戦略会議	構成団体	後期計画準備稿の共有と方向性の確認
4月	弟子屈町観光振興計画後期計画 施行		

#### ※1 対象

掲載スペースの都合上、以下の団体の略称を用いています。

運協＝阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会 / 観光協会＝摩周湖観光協会 / 農協＝摩周湖農業協同組合 / 商工会＝弟子屈町商工会  
振興公社＝弟子屈町振興公社 / えこまち＝てしかがえこまち推進協議会

#### ※2 ヒアリング実施団体

【弟子屈町観光経済戦略会議所属団体】摩周湖観光協会、弟子屈町商工会、摩周湖農業協同組合、釧路信用金庫弟子屈支店、北洋銀行弟子屈支店

【てしかがえこまち推進協議会構成団体】弟子屈町教育委員会、弟子屈町振興公社、弟子屈町自治会連合会、てしかが郷土研究会

【てしかがえこまち推進協議会各専門部会】エコツーリズム推進部会、人財育成部会、食文化部会、女性部会、UD部会、情報部会、アート部会

【弟子屈町】観光商工課、まちづくり政策課、環境生活課、健康こども課、福祉課、農林課

【環境省】阿寒摩周国立公園管理事務所

【地域団体】川湯温泉旅館組合、阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会、弟子屈町地域公共交通活性化協議会、みちえき摩周直売会、てしかがトレイルクラブ、釧路川源流域ネットワーク



写真上：2022年6月および9月に実施した「町民ツアーでの観光振興計画の理解促進講座」

## 卷末資料

## 皆さまからのアイデア集

本計画の策定においては、町民の皆様にご多くの貴重なご意見や今後の具体的な取り組みアイデアを頂きました。全てのアイデアは弟子屈町の未来を作っていくために欠かせないものです。観光振興計画として現段階で掲載することは難しかったものの、ご提案いただいた取り組みアイデアを下記に紹介させていただきます。

### 観光資源の活用

- \* 星空を活用した観光体験の造成
- \* 屈斜路湖・中島での探索ツアーの造成
- \* 国立公園でのウェディングフォトプラン
- \* ゴルフツーリズムや、スポーツツーリズムの開発



### 川湯温泉の活性化

- \* 温泉川や遊歩道に名前をつける
- \* 街中拠点の再整備（バスターミナル）
- \* 温泉街の一部を歩行者優先道路に変更
- \* 温泉街へとつながる導線に、デザイン看板を設置

### 具体的なツールを作る

- \* ユニバーサルなアイコンを作る
- \* 統一コンセプトによる観光マップ、冊子、ウェブサイトを制作
- \* えこパスのおしゃれ化

### 学べる観光のあり方を整備

- \* 弟子屈の魅力を発信する語り部を含むツアー造成
- \* 動画の制作
- \* 弟子屈高校に観光学科を作り、人材を育成する

### 環境負荷の軽減

- \* レンタル自転車を活用した、観光ルートの開発
- \* 電動キックボードのシェアリング
- \* 環境負荷に配慮したオリジナルボトルの開発
- \* 屈斜路湖や釧路川源流の利用についての条例制定



## 用語集

### あ

#### インバウンド

インバウンド (Inbound) とは、外国人が訪れてくる旅行のこと。日本のインバウンドとは、訪日外国人旅行や訪日旅行を指す。(出典：JTB 総合研究所)

#### オウンドメディア

弟子屈町のホームページや SNS など、自分たちで運営するメディアのこと。

#### オーバーツーリズム

サステナブルツーリズムの反対語。特定の観光地において、訪問客の著しい増加などが、住民生活や自然環境、景観等に対して受忍限度を超える負の影響をもたらしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。世界の観光地で、観光客の増加による交通機関の混雑や交通渋滞、ゴミや騒音など生活環境の悪化が住民の反発を招いたり、自然環境保護のため人気の高いビーチが閉鎖されるなどの状況が発生している。

### か

#### カーボンゼロ (ゼロカーボン)

企業や家庭から出る二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) などの温暖化ガスを減らし、森林による吸収分などと相殺して実質的な排出量をゼロにすること。「カーボンニュートラル」とも呼ばれる。政府は 2020 年 10 月、50 年までにカーボンゼロを達成する目標を掲げた。海外では欧州が 50 年、中国が 60 年までに「実質ゼロ」とすることを打ち出している。

#### カーボンオフセット

日常生活や経済活動に伴う温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせ (オフセット) すること。(出典：公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団)

#### カーボンプレジット

バイオマスボイラーや太陽光発電設備の導入、森林管理等のプロジェクトを対象に、そのプロジェクトが実施されなかった場合の温室効果ガスの排出量および除去量の見通し (ベースライン排出量等) と実際の排出量等 (プロジェクト排出量等) の差分について、測定・報告・検証を経て、国や企業等の間で取引できるよう認証したものを指す。(出典：環境省)

#### 観光入込客数

弟子屈町を訪れた観光客の実人数。景勝地や観光施設などの来訪者数を元に算出している。

#### コワーキングスペース 【Coworking space】

コワーキングスペースは CO = 共同、ワーキング = 仕事、スペース = 場所を指し、企業や個人事業主に関わらず一緒に仕事ができる場所を指す。誰でも利用できるスペースや会員制など様々なサービスが生まれている。

#### コンテンツ

観光における「コンテンツ」とは、旅行者が現地体験するアクティビティ、景色、物語性などの「内容」を指す。

### さ

#### サステナビリティ・コーディネーター

GSTC を通して発見した、地域の強みや弱みを分析し、持続可能な観光を弟子屈で作るにはどうしたらいいのかを考え、先導して実行する人材。

#### 持続可能な観光 (サステナブルツーリズム)

地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを重要視しながら、観光地に住む町民と観光客とが相互に潤うことが重要という考え方に基づいた観光。地域住人・旅行者・環境が持続可能であり続けるには、どうすべきかを念頭に置いて、観光地の開発やサービスのあり方を考える旅の形。

#### 持続可能な開発目標 SDGs 【Sustainable Development Goals】

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として 2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っているもの。(出典：外務省)

## た

### DESTINATION

旅行目的地、旅行先のこと。その範囲は行政区単位とは限らず、国や都市、地域全体を指すことがある。

### テレワーク

テレワークとは「tele = 離れたところ」と「work = 働く」を合わせた造語。テレワークとは、「ICT（情報通信技術）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」を指す。インターネットなどのICTを利用することで、本来勤務する場所から離れ、自宅などで仕事をする柔軟な働き方。（出典：厚生労働省）

## は

### ビジョン

これから描く未来像のイメージや方向性のこと。

### フードマイレージ

フードマイレージとは食料の輸送量に距離を掛け合わせた指標。地球環境に与える負荷を把握するものとして使われている。（出典：農林水産省）

### プロモーション

本稿で使用されているプロモーションとは、地域の魅力を発信し、誘客や販売を促進する活動のことを指す。

### ペルソナ

ある仮定された一人の消費者について、家族構成や居住地、経済状況、趣味、交友関係など詳細なライフスタイルについて想像（創造）し、サービスや商品のターゲット像とするもの。（出典：JTB 総合研究所）

## ま

### マストツーリズム

観光の大衆化。レジャーとしての観光。大型バスで観光地に訪れる低価格重視な旅行プランが中心。環境問題やオーバーツーリズムにつながると懸念されている。

## や

### ユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障がいによりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。（出典：総務省）

## A

### AT（アドベンチャートラベル）

「アドベンチャートラベル（AT）」とは、『アクティビティ』『自然』『異文化体験』の3つの要素のうち、2つ以上を組み合わせた旅行形態。ATの世界市場規模は70兆円を超えと言われており、従来の旅行形態「マストツーリズム」と比較して、旅行者一人当たりの消費額や地域への経済波及効果が大きく、需要拡大が期待できる観光分野として注目を集めている。

### DMO

ディーエムオー（DMO）とは Destination Management/Marketing Organization の略称であり、観光地域づくり法人を意味する。「観光地域づくり法人は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人」とされている。（出典：観光庁）

### GSTC

#### 【Global Sustainable Tourism Council】

持続可能な観光の推進と、持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に2007年に発足した国際非営利団体。持続可能な観光に関する国際基準（産業向け・観光地向け・MICE・アトラクションの各基準）を開発・保有。

### JSTS-D

#### （日本版持続可能な観光ガイドライン）

#### 【Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations】

「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」はグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC：Global Sustainable Tourism Council）が開発した国際基準である観光指標をベースとした日本向けガイドライン。

## 本書で使用しているロゴマークについて



### サステナロゴマーク（表紙）

2023年に公式観光サイト「弟子屈なび」をリニューアルした際に作成したロゴマーク。弟子屈町観光振興計画のスローガンである「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」の、分かりやすいコミュニケーションワードとして作成された「ふれる、めぐる、いきる。」を体現するものです。カルデラと湖、外輪山、それらと共生する人々の輪をイメージして作成され、「弟子屈なび」をはじめ、観光関係の制作物に活用しています。 <https://www.masyuko.or.jp>



### 川湯温泉ロゴマーク（p.30）

川湯温泉街の再整備に向けて、2025年に新たなロゴマークを作りました。コンセプトは「これまでの継承と再構築」。川湯温泉街を地域の皆さんと歩き、川湯神社や看板・標識、廃ホテルの名前や商品名などから「川」の文字を採集。それらの意味を考えながら組み合わせることで、新しい「川」の文字をデザインしました。パンフレットやポスター、ホームページ、提灯など、さまざまな制作物に活用しています。 <https://www.kawayu-onsen.com>





北海道  
弟子屈町



弟子屈町の観光情報  
(弟子屈なび)  
[www.masyuko.or.jp](http://www.masyuko.or.jp)



弟子屈町役場  
[www.town.teshikaga.hokkaido.jp](http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp)

弟子屈町観光振興計画（後期）  
2026年4月



Photo: 冬の屈斜路湖をスタートするカヌー